

武庫女OG、現役学生が大集合!

武庫川女子
大学ラジオ

読む MUKOJO ラジオ



DJ:塩田えみさん
(武庫川女子大学短期大学部卒業生)



ラジオで!



スマートフォンで!



パソコンで!



毎週水曜20:00~20:30 FM OH!で放送中

MUKOJOラジオ 検索



「MUKOJOラジオ」 リスナーのみなさんへ

「MUKOJOラジオ」はFM OH!で毎週水曜20:00~20:30に放送しているラジオ番組です。2019年に創立80周年を迎える武庫川学院が、18万人にのぼる卒業生と1万2000人の学生・生徒、教職員や地域の人たちが集うプラットフォームをめざし、2017年4月に始まりました。武庫川女子大学がCMも含め、企画から提供まで、すべて手掛ける完全オリジナル。大学がラジオCMを提供したり、番組のコーナーを持ったりすることはあっても、定時の30分間枠を丸ごと持つのは例がありません。

テーマは「輝く女性を応援!」。毎回、卒業生や在學生、教員1組がゲスト出演し、DJの塩田えみさんと楽しいトークを繰り広げます。有名人ではないけれど、夢に向かう道のりはそれぞれにドラマチック。彼女たちの心の底流には、いつも武庫女があります。豊かな水をたたえ、ゆったりとキャンパスに寄り添い続ける武庫川の流れのように。ことさら母校を礼賛する人はいないけれど、「武庫女でよかった」「武庫女だから今がある」という愛と誇りが、言葉の端々から伝わってきます。ちなみにDJの塩田さんも本学の卒業生。彼女もキラキラ輝いています。

新入生のみなさん。あなたがこれから学ぶ武庫川女子大学には、こんなに素敵な先輩たちがいます。卒業生のみなさん。昭和14年、高等女学校の小さな木造校舎から始まった武庫川学院が、日本最大の女子総合学園に発展したのは、卒業生一人ひとりが人生を輝かせ、「武庫女」の名を明るく照らしたからです。在学・在校生のみなさん。あなたの周りにも、キャンパスで輝く武庫女生がいるでしょう。そう、あなたもきっと、その一人です。

そして「MUKOJOラジオ」を聞いてくださるリスナーのみなさん。ふと、友達の顔が浮かんだり、よく似た世代の思い出に、懐かしさを感じたりしませんか。ラジオから流れたすてきなトークを紙面に再現した「読むMUKOJOラジオ」。ページのどこかに、未来のあなたが見えるかもしれません。

2017年4月～12月

I 「MUKOJOラジオ」リスナーのみなさんへ	
II 塩田えみさんと振り返る——「MUKOJOラジオ」収録の現場から	…… 2
III ゲストトークとアンケート	
第1回 4月5日放送 「心に届くラジオの力——武庫女の宝宝箱を開けてみませんか」	…… 4
	河内鏡太郎(図書館長、教授)
第2回 4月12日放送 「手作りアクセサリーで起業」	…… 6
	岡田夏帆(生活環境学科4年)
第3回 4月19日放送 「味噌づくりで観光を——大学生観光まちづくりコンテスト準優勝」	…… 8
	井上裕美子・小島里香子(情報メディア学科4年)
第4回 4月26日放送 「夢はオペラ歌手——第8回東京国際声楽コンクール大学生部門1位」	…… 10
	中西史(演奏学科卒)
第5回 5月3日放送 「世界中の図書館を旅して」	…… 12
	川崎安子(短大国文学科卒)
第6回 5月10日放送 「いまどきの図書館——ライブラリーカフェで本格コーヒーを」	…… 14
	西本紗也・高橋倫子(情報メディア学科4年)
第7回 5月17日放送 「伝説の応援団長、ダンスと舞で世界にはばたく」 奥祥子(食物栄養学科卒)	…… 16
第8回 5月24日放送 「動くタウンページで、新風吹き込む」 小水万由(情報メディア学科4年)	…… 18
第9回 5月31日放送 「英語が好きだから——英語プレゼンコンテストで準優勝」	…… 20
	白井美羽(英語文化学科4年)
第10回 6月7日放送 「『作家と語る』を前にI——心齋橋トップレディと本でつながって」	…… 22
	辰己由貴(英語文化学科卒)、今井桃代(演奏学科2年)
第11回 6月14日放送 「『作家と語る』を前にII——本が大好き！」	…… 24
	徳島佐由美(院看護学研究科修士修了)
第12回 6月21日放送 「学生の暮らしを支える寮のチューター」 信国佐代子(健康・スポーツ科学科卒)	…… 26
第13回 6月28日放送 「自然の中で主体性をはぐくむ——丹嶺学苑研修センター」	…… 28
	加治由佳子(教育学科人間関係コース卒)、西崎果菜(短大生活造形学科卒)
第14回 7月5日放送 「自分のファッションブランドを立ち上げて」 松浦あや(生活環境学科卒)	…… 30
第15回 7月12日放送 「私が受け継ぐ民謡のバトン」 岡部祐希(応用音楽学科1年)	…… 32
第16回 7月19日放送 「学生アスリートを支えるスポーツセンター」	…… 34
	三好雅之(スポーツセンター職員)、浅田鈴佳(健康・スポーツ科学科卒)
第17回 7月26日放送 「京の花街に夢追って」 梅葉こと尾上智子(人間関係学科卒)	…… 36
第18回 8月2日放送 「被爆者の体験を伝える」	…… 38
	小国美弥子(国文学科卒、院国語国文学専攻修士修了)
第19回 8月9日放送 「トルコから建築を学びに来た2人」	…… 40
	ゴンジャ・ハンデ・シャヒン(院建築学専攻研究生)、ベイザ・ヌル・ボズクルツ(院建築学専攻修士修了)

第20回 8月16日放送	「女子大の薬学で化粧品を学ぶ」 菅沼薫(薬学部非常勤講師)、石井美月(健康生命薬科学科4年)	…… 42
第21回 8月23日放送	「病気の子どもたちに笑顔届ける——クリニックラウン」 藤本真実子(短大人間関係学科卒)	…… 44
第22回 8月30日放送	「飲める?飲めない?アルコール体質診断」 木下健司(薬学部教授)	…… 46
第23回 9月6日放送	「めざすは東京オリンピック——躍進する体操部」 大野和邦(体操部監督)、三井正也(体操部部長、健康・スポーツ科学部教授)、 平岩優奈・刀根綾菜(健康・スポーツ科学科1年)	…… 48
第24回 9月13日放送	「心を一つに——バトン・チアリーディング部」 西村くるみ(健康・スポーツ科学科3年)	…… 50
第25回 9月20日放送	「言葉のなぜ?を探って——ブログに見る現代日本語」岸本千秋(国文学科卒)	…… 52
第26回 9月27日放送	「被災地・大槌町で感じたこと」 多鹿春菜(心理・社会福祉学科4年)、中安瞳(英語文化学科1年)	…… 54
第27回 10月4日放送	「武庫川学院を愛して——祖母、叔母、孫の3世代武庫女生」 青木麻奈・青木理紗(短大日本語文化学科卒)	…… 56
第28回 10月11日放送	「国際女性ビジネス会議に参加して」 日置彩菜(英語文化学科4年)	…… 58
第29回 10月18日放送	「開館60年の逸翁美術館で企画展」 宮井尚佳(日本語日本文学科卒)	…… 60
第30回 10月25日放送	「絵本作家の夢つかんだ『ウォールズ』」 ありま三なこ(生活環境学科卒)	…… 62
第31回 11月1日放送	「記憶を風化させない——報道記者として」中村和可奈(日本語日本文学科卒)	…… 64
第32回 11月8日放送	「アスリートを栄養面からサポート」 成田厚子(食物栄養学科卒)	…… 66
第33回 11月15日放送	「音楽で患者さんに寄り添う」 澤木見佳(声楽学科卒)	…… 68
第34回 11月22日放送	「全日本インカレ6連覇達成——東京五輪めざすカヌー部」 橋本千晶(カヌー部コーチ)、松永あゆり(健康・スポーツ科学科4年)、 薦田遥(健康・スポーツ科学科3年)	…… 70
第35回 11月29日放送	「女子大初、エネマネハウス2017に参加」 川崎祐華・堀内環美(院建築学専攻修士2年)、大原こころ(院建築学専攻修士1年)	…… 72
第36回 12月6日放送	「世界にたった一冊の本を作る喜び」 中尾エイコ(II部短大被服科卒)	…… 74
第37回 12月13日放送	「コーヒーに魅せられて——生産者とともに歩む」 長谷川裕加(英語文化学科卒)	…… 76
第38回 12月20日放送	「スポーツする女性を美しく——魔法のレギンスを開発」 穂原寿識(健康・スポーツ科学部講師)、 八木あずみ・山際優花(短大健康・スポーツ学科2年)	…… 78
第39回 12月27日放送	「フィリピンで学校に行けない子どもたちを支援」中野陽子(英語文化学科卒)	…… 80
使い方ガイド		…… 82

塩田えみさんと振り返る

—「MUKOJOラジオ」収録の現場から



「こんばんは、塩田えみです。ここからは、武庫川女子大学ラジオ『MUKOJOラジオ』のお時間です」。毎週水曜午後8時。FM OH! から、ラジオパーソナリティ・塩田えみさんの、柔らかな声流れます。塩田さんとゲストの約15分間のトークコーナーが番組のメインコンテンツです。スタジオ入りのときはちょっぴり緊張気味のゲストも、塩田さんが放つ、癒しのオーラに包まれてリラックス。塩田さんと年代の近い卒業生がゲストのときは、「そうそう」「知っている!」と、武庫女トークもヒートアップします。

塩田さん 同じキャンパスで同じ空気を吸い、時には同じ先生から学んだ先輩や後輩は、初対面でも「私たちはつながっている」と感じます。特に中学から大学まで武庫川学院で学んだ卒業生とは、世代を超えて、共通の思い出があります。伝統校の良さですね。

初めてのラジオ番組制作に奮闘

もちろん大学にとってラジオ番組制作は初めてのチャレンジです。2017年1月ごろから、FM OH!、制作会社を交えて何度も話し合いを重ね、方針を固めました。番組のタイトルはシンプルに「武庫川女子大学ラジオ-MUKOJOラジオ-」としましたが、学生の間では「ムコラジ」の愛称が定着しつつあるようです。

「輝く学生や卒業生をゲストに迎える」という方針に基づき、様々なネットワークを駆使して探し出した武庫女生や卒業生らに、出演を依頼。OKが得られたら、お話しいただく内容を聞き取り、台本を作ります。本学で非常勤講師を勤める塩田さんがキャンパス内で学生らと直接打ち合わせをするとも。

塩田さん ゲストの方の経験の中から、どのポイントでお話が広がるか、探りながら事前打ち合わせをします。ただ、作り込まない新鮮な感情をお伝えしたいので、打ち合わせにない質問をあえて、投げかけることがあります。答えにくかったらごめんなさい(笑)

収録当日はFM OH!のスタジオで集合。軽い打ち合わせの後、塩田さんのリードでトークが始まります。素敵なエピソードを引き出す秘訣とは？

塩田さん ゲストの方のお話をしっかり聞いて、受け止めることが大事だと思っています。そうすることで、この部分をもっと掘り下げたい、とか、ゲスト自身が気づいていない面白さが、客観的に見えてくることがあります。

多彩なゲストが続々

驚くべきは卒業生の多彩さです。デザイナー、絵本作家、テレビ局の報道記者、学芸員、音楽療法士。京都・上七軒の芸妓さんやコーヒーマイスターもいれば、海外で国際支援活動に従事する卒業生



も。必ずしも卒業学科と現在は単線で結びつきません。「専業主婦だったけれど、子どもに背中を押されて、新しい世界に飛び込んだ」「子育て中の趣味で始めたことが、いつの間にか教室になった」など、女性ならではの紆余曲折が凝縮され、一代記のダイジェストを聞くワクワク感があります。学生も負けてはいません。民謡歌手であり、民謡の先生という大学1年生、手作りアクセサリーで起業する4年生、NTTタウンページの企画を任されたゼミ生——。全国トップレベルの大会で優勝や準優勝、インカレ連覇など、輝かしい記録を引っ提げて、海外の大学院進学をめざして、それぞれの夢や悩みを語り、等身大の学生像を見せてくれます。

塩田さん 芸妓さんがゲストの回は、未知の世界に好奇心をそそられ、質問が止まらず、収録時間が大幅に延びてしまいました。

この番組に登場する在学生は、未来をしっかり見つめていて感心します。学生時代に自分のやりたいことを見つけられたらラッキーですね。でも、まだ見つからない人も、まずは今いる場所で全力を尽くしてほしいです！

SNS運動

聞き逃しても、「radiko.jp」で1週間以内なら視聴可能。ポッドキャストなら、いつでも過去の放送内容を聞き直すことができます。武庫女のツイッターや番組ツイッターでの情報発信も、新しい試みです。

「MUKOJOラジオ」2年目へ

ゲストを中心に、卒業生や同級生の輪が広がり、「武庫女の卒業生でよかった」「武庫女生であることに誇りを感じる」という声が発送回を追うごとに強くなっています。80周年に向け、パワーアップする「MUKOJOラジオ」に、ますます“耳”が離せません。

塩田さん 人の数だけ人生があり、人の数だけ価値観があります。「MUKOJOラジオ」は、女性の生き方の多様性をお伝えできる番組だと思います。私も卒業生の一人として、母校の素晴らしさをたくさんの方に知ってもらえるよう、これからも頑張ります！



心に届くラジオの力 —武庫女の宝石箱を開けてみませんか



2018年3月 アウシュビッツで



河内 鏡太郎さん

図書館長。共通教育部教授
元読売新聞大阪本社編集局長

武庫川女子大学で図書館長をしながら教授として授業もしています。生身の学生が1万人、目の前にいて、こちらが第一声を発した瞬間に評価が下されるという環境は、ある意味、恐ろしい。常に緊張感をもって教壇に立っています。

武庫川女子大学は、大阪と神戸の中間地点にあり、甲子園球場に最も近い大学です。最寄り駅の阪神鳴尾駅が阪神電車の高架化事業に伴い、長く工事中でしたが、2017年3月、上下線とも開通し、新しい駅がお披露目されました。新築した駅舎の設計には本学の建築学科の大学院生も関わりました。ホーム床面のタイルなど、随所に学生のアイデアが生かされています。地域とのふれあいを大切にしている本学だから実現したコラボレーションといえるでしょう。

1939年に高等女学校として歩みを始めた武庫川学院は、2019年、80周年を迎えます。これを記念して、卒業生による座談会を展開中です。2016年5月には、一期生の座談会を



授業で学生に語りかける 河内館長

しました。90歳を超えてなお、現役の書家や、卓球の選手として、ご活躍されている方が多く、驚きました。みな、校祖・公江喜市郎先生の薫陶を受けており、「あのころの学びが私の人生を支えている」と話されました。公江先生が女子教育を志したのは、「女子の教育が嫁入り道具や装飾であって、これからの日本は成り立たない。男性と同等、いやそれ以上に力を持った女性を育てたい」という思いからでした。戦後、女子専門学校時代には、遠方から進学した学生を公江先生の自宅に下宿させたこともあったようです。教える側と教えられる側の濃密な関係が、当時から構築されていたのでしょう。

大学で私が図書館長室にいますと、学生が次々集まってきます。教員として、一人ひとりと向き合うのは大変なエネルギーと意志が必要ですが、公江先生のところから本学の教員はみな、真摯^{しんし}に学生に向き合ってきました。私もできる限り、彼女たちの話に耳を傾け、アドバイスを送り続けたいと思っています。

ラジオ出演を終えて

1 出演した感想

ラジオはミニコミです。言葉や思いがしっかりと届きます。大学の広報戦略としてはユニークですが、聞く人たちとキャンパスの距離がぐんと近くなると思います。

2 周りの反響

学生や卒業生に、お母さんから「河内先生の声、いま聞いたよ」という連絡があったそうです。ラジオを聞いているのはきっと、その年代の女性が多いのかなと思いました。

3 2で印象的な言葉、リアクション

静岡のFM局でパーソナリティとして活躍している卒業生が、ラジオ出演の大切な三か条を教えてくださいました。マイクに向かうのではなく聞く人たちの顔を浮かべましょう。早口になってはダメですよ。話す側が楽しまなくては面白くなりませんね。なるほど、と思うことばかりでした。

4 出演の前後で気持ちや暮らしに変化は

言葉で伝えることの難しさを改めて実感しました。ひとこと一言の重さです。

5 武庫女とMUKOJOラジオに期待すること

必ず録音をしてくれている先生がいます。聞きながら仕事を続ける先輩がいます。その人たちに届くのは、「武庫女」で学び、「ムコジョ」から巣立ったという誇りではないでしょうか。実に多彩なMUKOJO人物誌が展開されています。ぜひ、その物語に耳を傾けてみませんか。



手作りアクセサリーで起業



自作のアクセサリーを販売する
岡田さん(ルクアイーレにて)



岡田 夏帆さん

生活環境学部生活環境学科4年

小さいころから、画家である祖父の絵に囲まれた部屋で、祖母が作ってくれた洋服を着て、母をまねてアクセサリーを作って遊んでいました。家族全員が何かモノを作っている環境で、手作りのぬくもりを感じて育ちました。

アクセサリーの委託販売を始めたのは高校3年生のとき。自分で作ったアクセサリーを持って雑貨店に行き、「置いてもらえませんか」と、売り込みました。

現在は委託販売のほか、ネット販売やアクセサリー教室もしています。作るのは主に布花アクセサリー。一枚一枚布を切って筆で染めて、熱で花びらのように形づくったアートフラワーのアクセサリーです。色は何回も重ねて深みを出します。あえてくすんだ色にすることで、肌なじみがよくなり、身につける人本来の美しさが引き立ちます。売り場でお客さんが手に取り、「かわいい」と言ってくれる声を聞くとうれしいですね。

大学ではアパレルを専攻。3年生のとき、授業で天然染色を学び、「天然でこんなきれいな色が出せるんだ」と、感動したのがきっかけ

好きなことを仕事にしたい。
その答えが学生起業でした。



武庫女で輝く女性に。

岡田さんは2017年12月、新聞広告に登場しました

で、草木染めアクセサリーを作りたいと思うようになりました。ゼミでも天然染色の研究に取り組んでいます。

失敗もあります。初めてアクセサリー教室を開いたときは、私の段取りが悪くて、せっかく来てくれたお客さんに迷惑をかけてしまい、泣きそうでした。でも、2回目以降、しっかり準備して臨むと、お客さんから「大満足」「楽しかった」という感想をいただけて。自分で一から企画し、やり遂げたときの喜びは、与えられた仕事をするのとは全然違う、と実感しました。

卒業後は起業して、アクセサリーの制作、販売と教室を事業化する予定です。自分で稼いで食べていけるのか不安もありますが、親戚の人から「食べていけるようにすればいいんだ」と言われて、吹っ切れました。

実は高校3年生のとき、親友と交わした約束があるんです。美容師をめざす彼女と、アクセサリー作りをめざす私と「10年後、一緒にトータルビューティーの会社を作ろう」って。その約束を果たすためにも、まずは一人で頑張ってみようと思っています。

ラジオ出演を終えて

1 出演した感想

自分の思いを伝えるのはとても難しいと感じました。あとき、このように答えたらよかったなと、後からたくさん、思い浮かびました。これも一つの経験として今後に生かします。

2 周りの反響

知人や母の友人から、「偶然聞いたよ」と連絡がありました。

3 2で印象的な言葉、リアクション

アクセサリーの内容を具体的に聞きたいと、知人から連絡があり、後日会って説明しました。経営者同士をつなぐお仕事をしている方です。

4 出演の前後で

気持ちや暮らしに変化は

ラジオに出た日は、自分があの日からどこまで進めたかの、一つの基準になっています。公言したことが実現できるよう、頑張りたい、という気持ちが強くなりました。

5 武庫女とMUKOJOラジオに

期待すること

武庫女にはたくさんの学生がいます。どんな魅力的な学生、卒業生がいるのか私も知りたいです。そしていろんな学科の学生がコラボして、一緒に何かを作り上げることができたらいいと思います。



味噌づくりで観光を —大学生観光まちづくりコンテスト準優勝



井上さん(中央)と小島さん(右)

井上 裕美子さん 小島 里香子さん

生活環境学部
情報メディア学科4年



大森いさみゼミの4年生・井上さん、小島さん、江口梨津子さんの3人は、味噌づくり体験をテーマに、「大学生観光まちづくりコンテスト2016」に参加し、準優勝にあたる大阪観光局長賞を受賞。その企画をもとに、2016年12月、モニターツアー「能勢でおいしい味噌つくろや!〜手作り堪能日帰りバスツアー〜」を開催した。

私たちはもともと食生活をテーマに研究をしていましたが、コンテストに応募するため、最も身近な味噌に焦点を当てました。まずは、自分たちで味噌を作ってみようと、味噌づくり体験ができる場所を探しました。味噌の材料は大豆と塩と麴だけ。豆をつぶして混ぜて、こねて、という作業が、めっちゃ楽しかった!農家の方に、地域や材料の配分によって味噌の味が変わるとか、いろんなことを教えていただき、あちこちフィールドワークに出かけました。畑を見て回ったり、味噌を試食したり。「この味噌しか食べられない」と、わざわざ遠方から買いに来るリピーターのお客さんもいると聞いて、味噌の奥深さを感じました。

コンテストは、書類審査とプレゼンテーション。プレゼンは何度も何度も練習しました。本番は力を出し切って気が抜けてしまい、大阪観光局長賞とパフォーマンス賞をいただいたとき、「え?」という感じで、なかなか実感が沸かなかったですね。



味噌作り挑戦するモニターツアーの参加者ら

この受賞がきっかけで、大阪府能勢町で味噌作りを体験するモニターツアーが実現し、約40人が参加してくれました。実際にやってみると、思い通りにいかないことも多かったけれど良い経験になりました。

一連の取り組みを通して、企画書の書き方や発表の仕方など「伝える」ことの難しさ、3人で長期間、同じ方向に向かって取り組む大変さも感じました。今は就活の真っ最中。「農家の魅力発信のサポートをするため、広告業界を目指す」（小島）、「自分の提案が実現して『ありがとう』と言われた経験にやりがいを感じたので営業職を目指す」（井上）など、味噌を通して農家の方と関わった体験が、それぞれの進路選びにつながっています。

ラジオ出演を終えて

小島里香子さん

1 出演した感想

ラジオ収録という、初めての体験にワクワクしました。思っていたよりスラスラ話せてびっくりしました。

2 周りの反響

ラジオを聞いて、私がやってきた活動に興味を持ってくれる人もいました。

3 2で印象的な言葉、リアクション

私が普段、どんなことを考え、活動しているかに興味を持ち、「すごい立派だね」と言ってもらえたことが、うれしかったです。

4 出演の前後で

気持ちや暮らしに変化は

メディアを通して自分の活動を伝えた責任感から、もっと深く、活動について考える必要があると感じました。

5 武庫女とMUKOJOラジオに

期待すること

武庫女と直接関わりがない人にも興味をもってもらえる番組になってほしいです。





夢はオペラ歌手

—第8回東京国際声楽コンクール 大学生部門 1位



恩師の柏木先生(右)と



中西 史さん

音楽学部演奏学科2017年卒

附属中学に入学すると、コンクール、演奏会などの出演機会が多いコーラス部に入部しました。歌が下手で怒られてばかりいた中学2年のとき、少しでもうまくなると、校内の音楽教室で声楽のレッスンを受けることに。その教室の先生のお人柄や素晴らしい歌に触れ、「専門的に歌を勉強したい」と、スイッチが入りました。

高校2年の春、コーラス部でオーストリアに演奏旅行へ行き、音楽と寄り添った歴史あるウィーンの街が気に入りました。同年、今度は声楽のサマーセミナーを受けるため、ウィーンを再訪。その際に選んだ曲が年齢にそぐわない大曲だったため、初回のレッスンで「16歳にこの曲は歌えません!あなたの喉に悪影響だからレッスンできない、もっと基礎を勉強できる曲を歌いなさい!」と言われ、基礎の大切さを痛感しました。

大学では、心から敬愛する柏木敦子先生との出会いがありました。誰よりも誠実、親切な先生からご指導をいただいた4年間は、かけがえのないものです。



甲子園会館で

私は人前で歌うとき、不安や緊張から生きた心地がしないことが多いのですが、2016年9月に開催された第8回東京国際声楽コンクールの本選では珍しく冷静に歌うことができ、1位になることができました。演奏直前、ドレスの裾さばきが悪く、舞台中央までの間に、裾を2回も踏み、初めての出来事に恥ずかしさから笑ってしまいました。この些細なアクシデントが、身構えていた私の心をリラックスさせてくれました。

表彰式後すぐ、柏木先生に電話しました。「あなたが1位なんて。1位が何人いるコンクールなの？」という先生らしい第一声から始まり、最後には「おめでとう、ゆっくり休んでください」と言っていただきました。本当にうれしかったです。

多様な学部学科を擁する武庫川学院だからこそその多様な学びを、10年間受けることができました。それは私のなかでとても大きなことです。音楽教室があったから、音楽の道に進むきっかけが得られ、大学に音楽学部があったからより一層、その道が具体的になりました。

夢はオペラ歌手。イタリアの国立音楽院への進学をめざしています。

ラジオ出演を終えて

1 出演した感想

歌う上で大切な基本的なことがいつまでたってもつかめず、今まで以上に歌うことが怖かった時期にラジオのお話をいただきました。声楽を始めた経緯や大学生活、コンクールのこと…。ラジオで話すのは新鮮な経験でした。音楽に対する気持ちが揺らいでいたあの時期に、ラジオで自分を振り返る機会をいただいたことは、「とにかく頑張ってみよう」と、再決意するきっかけになりました。

2 周りの反響

柏木先生のことばかり話したため「先生のことが大好き、ということがよく分かった」「素晴らしい先生なんだね」と言われました。

3 2で印象的な言葉、リアクション

柏木先生にラジオ出演してほしい、との声が多かったです。

4 出演の前後で

気持ちや暮らしに変化は

希望していたイタリアの国立バルマ音楽院のBiennio(大学院コース)に入学することになりました。

5 武庫女とMUKOJOラジオに

期待すること

これからも番組が発展することを楽しみにしています。



世界中の図書館を旅して



中央図書館で本を広げる川崎さん



川崎 安子さん

附属図書館図書課長

図書館司書

短大国文学科 1992年卒



Los Angeles Public Library
(ロサンゼルス公共図書館)

図書館は読書を通じて人を育む場です。本と人を結び付けるのが、図書館司書の役割です。一日に何百冊という本が私たちの前を通り過ぎます。武庫川女子大学は司書課程があり、約500人が履修しています。私も授業を担当し、司書の仕事を知っていただくために、一生懸命、学生に接しています。

大学を卒業したころ、トルコを旅行し、古代ローマ時代のケルスス図書館を訪ねました。かつて1万2000巻の巻物を所蔵し、今は遺跡となった館内で、連綿と続く図書館の歴史を感じて、感動に震えました。以来、世界中の図書館を探訪しています。国は違っても、互いに「ライブラリアンです」と言うと、たちまち親兄弟のような連帯感が生まれ、「おいでよ」となるので、訪問先には事欠きません。映画「シティ・オブ・エンジェル」で、ヘミングウェイの本を手取るメグ・ライアンを、ニコラス・ケイジを含む天使たちが吹き抜けの上から見下ろした現場に立って空想にふけったり、台湾の北投分館で、子ども向けの閲覧室の小さくて



かわいい机やいすに囲まれ、巨人・ガリバーの気分になったり。訪れた図書館は600を下りません。

日本では、約10年前から大学図書館が大きく変わってきました。以前は私語厳禁、黙々と勉強するイメージでしたが、仲間とわいわい言いながらグループ学習したり、飲食しながら勉強したりできる空間を備えた図書館が増えています。武庫川女子大学の図書館も学生が足を運びやすく、自由に過ごせるよう、2013年にリニューアルしました。2016年秋には、それまで朝8時半から夜8時までだった開館時間を、夜9時半に延長しました。仕事帰りに立ち寄ってくれる卒業生が増えて、うれしいですね。目的をもって勉強しに来られる姿は、学生にもいい影響を与えています。

私は本が大好き。専門職としての司書の立場は日本ではまだ評価が不十分ですが、我々の存在を知っていただき、この仕事の重要性を感じていただければ、うれしく思います。

ラジオ出演を終えて

1 出演した感想

自分の声のトーンや言い回しを客観的に知ることができ、授業や講演での話し方に生かしています。ラジオの収録現場に立ち会うのは初めての経験でしたので、楽しかったです。

2 周りの反響

放送日を知っていた方々からは「面白かった」と言ってもらえました。ラジオを聞いてもらったことで、進行中のプロジェクトの人間関係がよりスムーズになったり、新たな仕事のオファーが届いたり、出演したことによるメリットは大きかったと思います。

3 2で印象的な言葉、リアクション

ゴールデンウィーク中の放送だったこともあり、兄弟家族が全員そろって聞きました。

4 出演の前後で

気持ちや暮らしに変化は

どのような仕事・趣味でも、ただ漫然とするのではなく、その楽しさや苦勞を人に伝えられるよう、結果を出したいと思う気持ちが強くなりました。

5 武庫女とMUKOJOラジオに期待すること

こういった形で学生や卒業生を紹介できることは素晴らしいと思います。



いまどきの図書館 —ライブラリーカフェで本格コーヒーを



高橋さん(中央)と西本さん(右)

西本 紗也さん
高橋 倫子さん

生活環境学部
情報メディア学科4年



地元 西宮市に本社のあるコーヒーメーカー・エスプレッソマシンの輸入販売とメンテナンスの会社「DCS」とコラボして、図書館カフェでコーヒーショップを運営するプロジェクトに、ゼミ生4人で取り組んでいる。

DCS直営のコーヒーハウス「フィールド」が今日、5月10日、武庫川女子大学中央図書館1階のライブラリーカフェで、コーヒー販売をスタートしました。私たちは同じゼミ生4人で、オープンに向けたPR活動や、コーヒーの市場調査などに取り組みました。ゆくゆくは商品開発もする予定です。

コーヒーに的を絞ったのは、女子大生が興味を持っていないものを広める方が面白いと思ったから。私たちがコーヒーはあまり飲まなかったのですが、プロジェクトを始めるにあたり、まずバリスタ研修を受け、コーヒーの知識をしっかりと頭に入れました。座学でコーヒーの基礎を学んだ上で、何種類か違うコーヒーを用意して、テイスティングしたり、ハンドドリップで実際にコーヒーを入れたり。プロの人と私たちが入れるのでは、同じ豆でも味が全然違うんです。ミルクを泡立ててコーヒーの上に模様を描くラテアートにも挑戦しましたが、ハートがお尻みたいになってしまって。結局、誰も成功しませんでした。



多くの学生でにぎわう図書館のカフェ

3月の卒業式の2日間、プレ販売をしました。式に参列した保護者の方がたくさん来てくれて「おいしかったよ」と言ってくださいました。大学で本格的なコーヒーを飲めるのが新鮮だったようです。実際にコーヒーを作るのはプロの方で、私たちはレジやホールを担当しました。一日目はバタバタして、コーヒーが間に合わず、焦ることもありましたが、二日目は売上も伸び、良い成果が得られました。

プロジェクトを通して、4人で情報共有ができていなかったり、責任の所在があやふやだったり、反省点もあります。世代の違い、企業の方々と接するとき、出しゃばりすぎかな、とか、こんな風に言ったら失礼かな、とか、迷うことも多かったのですが、貴重な経験になりました。

コーヒーショップはオープンから3日間、先着100名にプレゼントを進呈します。営業時間は午前11時半から午後4時半まで。メニューも豊富なので、ぜひ、いろいろ味わって、コーヒーの魅力を感じてください。

ラジオ出演を終えて

西本紗也さん

1 出演した感想

緊張していたので、収録はあっという間に感じました。人前で話すこと、伝えることの難しさを実感する良い機会になりました。

2 周りの反響

「ラジオに出る」と言うと、やっぱり驚かれました。自分の活動について家族に詳しく話したことはなかったのですが、ラジオを通して知ってもらうことができました。

3 2で印象的な言葉、リアクション

聞いた人が、これからのカフェの展開にとっても興味を持ってくれて、詳しく聞かれたことです。

4 出演の前後で

気持ちや暮らしに変化は

ラジオを通じて、改めて自分たちの活動を客観的に整理し、考える機会を持つことで、プロジェクトの方向性などを見つめ直すことができたことは、とても大きな収穫だと感じました。

5 武庫女とMUKOJOラジオに

期待すること

これからも続けていってほしいと思います。



伝説の応援団長、 ダンスと舞で世界にはばたく



長唄「今様望月」
日本舞踊協会関西支部「なにわの会」で
(国立文楽劇場)



自身が主宰する「スタジオSMS」発表会で

奥 祥子さん

生活環境学部食物栄養学科2005年卒
上方舞「榎茂都梅弥月（うめもとうめ
みづき）」とダンス「miduki」で活躍

大学時代、体育祭の応援合戦で、食物栄養学科の応援団長をしました。白塗りの顔に髪をひつつめ、黒いレオタード姿でひな壇に立ってマスゲームを繰り広げるのが、武庫川女子大学名物・応援合戦のスタイルです。食物栄養学科は万年、順位は下の方でしたが、私が応援団長になった年、「見せ方で勝負しよう」と、振付や曲を一新しました。このとき初めて使った「キューピー3分クッキング」のテーマソングは、今も受け継がれています。結果は「初優勝」。この後、食物栄養学科は優勝争いを続けているようで、ちょっとした伝説になっているとか。うれしいですね。

附属中高のころから、ダンスカンパニーに所属し、海外公演も経験していたので、大学進学時には、芸の道を行くと決めていました。食物栄養学科を選んだのも、芸の道を究めるには、健康管理が大事と考えたから。栄養士の資格も取得しました。ダンスと並行して日本舞踊に取り組み、大学3年のとき、なにわ芸術祭新進舞踊家競演会で賞をいただきました。以来、ダンスは「miduki」、日舞は上方舞



「榎茂都流」の「榎茂都梅弥月」として、活動を続けています。

ダンスと舞って表現の仕方は違いますが、踊り心は似ています。舞は静の動き、ダンスは動の動きなので、両方でバランスがとれる。どっちもしつこくやっている人は、結構珍しいみたいです。

ダンスは国内外で公演し、インストラクターとしても活動しています。日舞は2015年に国立文楽劇場主催公演「新進と花形の邦楽舞踊公演」、2016年に東京・国立劇場の「伝統芸能の魅力」に出演しました。国立主催の会は、とてもプレッシャーがあり、緊張しましたが、この出演をきっかけに、ソウルで開催された国際舞踊コンクールに参加し、伝統芸能部門で2位に入りました。舞を伝承するため、大阪歴史博物館が所蔵する舞に関する資料を読み解くプロジェクトも進めています。

武庫川で過ごした10年間、体育祭や文化祭で大きな役割を与えられ、いろいろなことに挑戦しました。その経験が今の、挑戦する自分をつくってくれた、と感謝しています。

ラジオ出演を終えて

1 出演した感想

久しぶりに母校の温かい空気を感じ、自分の活動をお話できて、とてもうれしかったです。

2 周りの反響

「聞いたよ〜」「活動頑張ってるね」と言ってもらいました。

3 2で印象的な言葉、リアクション

「声が癒やし系だった」「上手にしゃべっていたね」とか…。

4 出演の前後で

気持ちや暮らしに変化は

武庫川でお世話になった10年はかけがえのない時間で、自分の残した何か(私の場合は振付)が後輩に受け継がれていることを知り、とてもうれしく思います。

5 武庫女とMUKOJOラジオに期待すること

卒業して10年以上たつのに、こうして母校と関わることができて光栄でした。私の周りにも活躍している卒業生がたくさんいるので、どんどんゲストに呼んでほしいです。





動くタウンページで、新風吹き込む



小水 万由さん

生活環境学部情報メディア学科4年

福岡の高校時代、大学をネット検索し、情報メディア学科の丸山ゼミを見つけました。CMや短編映画作りに取り組むゼミの活動に興味を持ち、「このゼミに入りたい」一心で、進学を決意。もともとITで暮らしを支える仕事に就きたいと考えていたので、ITデザインやプログラミング、システムなど、学科の幅広い学びも魅力でした。願いがなくなって今、丸山ゼミで、ゼミ長として研究に携わっています。

メディアを使った地域活性化がゼミの大きなテーマです。タウンページで私たちが担当したのは地域特集の8ページ。「甲子園球場」をメインに、「芦屋から尼崎までの各駅の、女子大生がお勧めするカフェ」「酒蔵通りの紹介」という3つのチームに分かれて取材しました。

私は酒蔵通りを担当。取材に訪れた酒蔵で加熱処理をしていない生絞りのお酒をいただき、「こんなに味が違うんだ!」と感動しました。日本酒を使ったロールケーキやソフトクリームもあり、スイーツを入口にして、日本酒のファンを増やそうと、コンテンツを工夫しました。

NTTタウンページ2017「阪神南版(西宮市・芦屋市)」の特集ページを、丸山ゼミの4年生12人が任された。西宮・芦屋両市長との対談、甲子園球場、阪神沿線の見どころ紹介など。QRコードを使って、スマホで動画や360度映像も見ることができる。「尼崎市版」にも一部の記事を掲載した。



丸山ゼミの学生たち

今回、新しい試みとして、紙媒体に動画を載せました。酒蔵通りにあるレンガ館の吹きガラス体験を、動画で見ることができます。ページに掲載した写真に専用のアプリをかざすとガラス体験を映した映像が動き出します。360度見渡せるカメラで撮影した写真にも仕掛けがあります。この写真を同様にアプリで読み込み、スマホを目の前にかざすと、自分があたかもその場所に立ち、周囲を見ているように、空から地面まで見渡せます。写真だけでは伝わらないリアリティを感じてもらえると期待しています。

この活動を通して、見る人、使う人がいて初めてメディアは生きることを学びました。どうすれば見てもらえるか、使ってもらえるかを、まず考える。そこに、自分のやりたいことを組み込んでいくのが大事と感じています。

タウンページは秋に完成し、芦屋、西宮、尼崎に全戸配布します。ぜひ、スマホをかざしてみてください。

ラジオ出演を終えて

1 出演した感想

初めてのラジオ出演でとても緊張しましたが、みなさんのおかげで楽しく収録ができました。自分の学科やゼミ活動の事をいろんな人に聞いてもらえたので、出演して本当に良かったと思います。

2 周りの反響

たくさんの知人に「聞いてね!」と告知していたので放送後の反響が大きかったです。

3 2で印象的な言葉、リアクション

「大学生って何をしているのかわからなかったけど、ラジオを聞いて『そんな事までしてるんだ』と、びっくりした」という反応が多くて印象的でした。

4 出演の前後で

気持ちや暮らしに変化は

自分の発する言葉一つ一つに責任を持つよう考えるようになりました。

5 武庫女とMUKOJOラジオに

期待すること

リスナーを増やしてもっと知名度を上げてくれることを期待しています。



英語が好きだから —英語プレゼンコンテストで準優勝



白井 美羽さん

文学部英語文化学科4年

中学1年の期末テストで、英語で30点を取ったんです。ショックでした。それから毎日、欠かさず英語の勉強を続け、英語が大好きになりました。

武庫川女子大学の英語文化学科には、少人数の英語特別クラス「ACE」があるんですが、入学時はTOEICの点数が足りず、入れませんでした。まずは今のクラスで一番になると、教科書の内容を完全にマスターしてから、授業に臨むよう努力しました。英語文化学科は2年前期に全員がアメリカ・スポークン市にある武庫川女子大学の分校に4か月間、留学します。TOEICのスコアを上げるのが、この留学の目標の一つなので、寮でも図書館でもよく勉強しました。楽しかったですよ。帰国後、2年後期から、ACEに入ることができました。

2017年1月、香港特別行政区政府駐東京経済貿易代表部が主催する英語プレゼンテーションコンテストで準優勝しました。過去最多の223人がエントリーし、本選に進んだのは予選を通過した15人。まさか受賞とは思っていなかったので、名前を呼ばれたと



「香港杯全日本大学学生大使英語プログラム2016~2017英語プレゼンテーションコンテスト全国大会」で準優勝した。



きは、なかなか実感が沸かなかったですね。

コンテストのテーマは、ビジネス、映画、ワーキングホリデー、フードの4つ。私はビジネスを選び、香港のミニバスと日本のコミュニティバスを掛け合わせたような、“安くて早くて便利で人に優しい”乗り物コミニバスを世界に売り込むベンチャービジネスを提案しました。プレゼンテーションは、もちろん英語で。笑顔を絶やさず発表するのが難しく、ビデオを撮りながら何度も練習しました。

香港は旅行で何度か訪れたことがあり、エネルギーがもらえてリフレッシュできる大好きな場所です。受賞後、学生大使として香港に2週間派遣され、中文大学の授業に参加したり、香港の大企業を見学したりしました。

今回、コンテストに参加し、貴重な経験ができたのは、活躍の場を作ってくださった英語文化学科の先生方の厚いサポートと、いつも私を支えてくれた友人のおかげです。素晴らしい環境で大学時代を過ごせたことに、心から感謝しています。

ラジオ出演を終えて

1 出演した感想

母校のラジオに出演したことは一生に一度の貴重な経験です。とても誇りに思います。スタッフの方がすごく準備してくださっているのを感じました。

2 周りの反響

高校の友人も聞いてくれてうれしかった。特に家族は喜んで聞いてくれました。

3 2で印象的な言葉、リアクション

高校の友人から「大学に入っですごく変わったね」と言われて、とてもうれしかったです。

4 武庫女とMUKOJOラジオに期待すること

武庫川女子大学とMUKOJOラジオの知名度をあげてほしいです。「MUKOJOラジオ聞いているよ」という人が増え、全国どこに行っても「武庫川女子大学の卒業生です」と言う、「いい学校ですね」と言ってもらえるようになってほしいです。





『作家と語る』を前に！

一心斎橋トップレディと本でつながって



辰己さんは2018年2月、
第27代日本さくらの女王に選ばれました



今井さんは平成30年度
今宮戎神社の福娘に選ばれました

附属図書館がシリーズで開催している
「作家と語る：第4回～桐野夏生さんをお迎えして～」(2017年6月17日)で、桐野さんとのトークセッションに参加した。

辰己 由貴さん

文学部英語文化学科2015年卒

今井 桃代さん

音楽学部演奏学科2年

辰己：他大学で秘書をしています。今井さんとは、心斎橋筋商店街をPRする2017年の「心斎橋トップレディ」に選ばれ、宝恵籠行列に参加したり、七夕の短冊をかけたり、一緒に活動しています。トップレディ3人のうち2人が武庫女生。全くの偶然です。

今井：大学では、声楽担当の先生にマンツーマンでレッスンをしていただくほか、ピアノやサクソなどいろんな楽器に触れています。「心斎橋トップレディ」の選考会の控室で、辰己さんに出会い、黙々と読書をしていた姿が印象的でした。

辰己：私は社会人になるまで全く本を読まなかったのですが、通勤時間に又吉直樹さんの「火花」を読み始めたのをきっかけに、本が大好きになりました。昨年読んだ塩田武士さんの「罪の声」は、すごく分厚い本でしたが、実際にあったグリコ・森永事件を題材にしている、作家の取材力に圧倒されました。桐野夏生さんの「夜の谷を行く」も、連合赤軍の事件をリアルに描いた作品で、引き込まれました。自分がなれなかった職業やでき



ないことを本の中で体験でき、豊かな人生になってきたと感じています。知ることは自信につながります。本を読まなかったころの自分が信じられません。

今井：中学生のとき、読書家の姉のまねをして、湊かなえさんの「告白」を図書館で借りて読んでから、読書が好きになりました。最近読んだのは、恩田陸さんの「蜜蜂と遠雷」。音楽コンクールを舞台にした物語で、今まで読んだ中で一番心に残りました。この作品について私が書いた書評が、5月5日号の週刊読書人に掲載されました。「閉じた本には29枚の付箋が挟まれている。長めのブルー」という書き出しです。付箋は私が感動した箇所です。初めてのチャレンジでしたが、音楽と本、そして私がもう一つ続けているバレエの要素を盛り込み、私にしか書けない書評になったと思います。今度、「作家と語る」で桐野夏生さんとのトークセッションに辰己さんと一緒に参加します。桐野さんの「リアルワールド」について、どうしたらあんなリアルな心情を描けるのか、ぜひ聞いてみたいと思っています。

ラジオ出演を終えて

辰己由貴さん

1 出演した感想

楽しかったです。自分の声がこんな風に聞こえているのか、というのが正直な感想でした。収録の雰囲気は温かく、塩田さんとカフェでおしゃべりしているような感覚でした。

2 周りの反響

家族は身内がラジオで話していることが新鮮だったようで、非常に喜んでくれました。毎週、MUKOJOラジオを流しながら研究している職場の先生は、録音して聞いてくれました。

3 出演の前後で

気持ちや暮らしに変化は

今まで何気なく聞いていたラジオですが、話している人の表情や収録現場を想像しながら聞くようになり、ラジオを一層楽しめるようになりました。

今井桃代さん

1 出演した感想

自分の気持ちをラジオを通して伝えられて、良い経験になりました。後で放送を聞きかえし、もっと違う表現を使えばよかった、と思うところもありました。

2 周りの反響

高校時代の担任から「ラジオ聞きました。しっかりした意見や落ち着いた話しぶりに感心しました。武庫川女子大学で立派に成長していく姿、うれしいです」とメッセージが届きました。

3 出演の前後で

気持ちや暮らしに変化は

もっともっといろんな事に挑戦していこうという気持ちになりました。新しい出会いに感謝感謝です。



『作家と語る』を前に II 一本が大好き！



徳島 佐由美さん

院看護学研究科看護学専攻修士課程
看護学研究コース2017年修了

大学院で、重度な障がいのある子どもの看護実践をテーマに2年間、濃厚に研究しました。現在は森ノ宮医療大学で、小児看護学の教員をしています。

私は子どものころから本を読むのが好き。同時に何冊も、多いときは10冊くらい、手当たり次第に読むんです。登場人物やストーリーがごちゃごちゃになるけど、筋を思い出しながら読むのも、また楽しい。字を眺めていると安心するので。だから図書館がすごく好きです。静かで、空気や紙のにおいが心地よくて。

好きな作家は村上春樹さんや宮部みゆきさん。桐野夏生さんは一番長く読んでいる作家さんです。こんな文章が書いて、物語を作れる人ってどんな人かな、とずっと憧れていました。今度、「第4回作家と語る」で桐野さんに会えることになり、ジャニーズファンの中学生在がジャニーズに会えるというくらい、興奮しています。

今回、桐野さんの41作品のうち、私が読んだ本を年表にしてみました。感想や受賞歴を添え、シリーズものか、テレビや映画化されたか、



附属図書館がシリーズで開催している「作家と語る：第4回～桐野夏生さんをお迎えして～」(2017年6月17日)で、桐野さんとのトークセッションに参加した。



「作家と語る」で桐野夏生さんに質問する徳島さん（左端）

なども書き込みました。好きな作品は「ナニカアル」と「東京島」、「OUT」は外せません。「ナニカアル」は作家の林芙美子の手記の体裁ですが、まるで林芙美子が桐野さんに憑依したかのよう。巻末の出典リストが膨大で、相当に取材されたことがうかがえます。「東京島」はラストが意外でした。「OUT」は衝撃的。読み切るまで眠れず、初めて読書で徹夜した作品です。どれも、底辺で必死に生きている女性を描きながら、最後の最後、何か救おうとする作品だと感じています。

桐野作品は、登場人物の心理描写が細やか。多作の作家さんにありがちなワンパターンさがなくて、作品ごとに全く違う登場人物に出会え、セリフの口調もそれぞれに違うのが魅力です。

でも、新作に対して、辛口の書評を書かれることもあるはず。落ち込んだりしないのだろうか。どう乗り越えているのか。作品ごとに主人公になりきって創作しているとき、自分に戻る時間ってどれくらいあるのだろうか——。お会いしたらそんなことを聞いてみたいと思っています。

ラジオ出演を終えて

1 出演した感想

ラジオ収録の現場を生で体感でき、非常に興味深かったです。放送を聞いて、洗練された編集技術に驚きました。

2 周りの反響

友人は非常に喜んで聞いてくれて、話がうまいねと言ってくれる方もいれば、わざわざ録音して何度も聞いてくれた方もいました。武庫川女子大学の研究科の恩師たちは、録音までして聞いてくださいましたが、「普段の徳島さんらしくなく、普通だった」と、辛辣な声もありました。緊張していたのが分かったみたいです。

3 武庫女とMUKOJOラジオに期待すること

他の大学とのコラボ企画や大学の教員の出演を期待します。

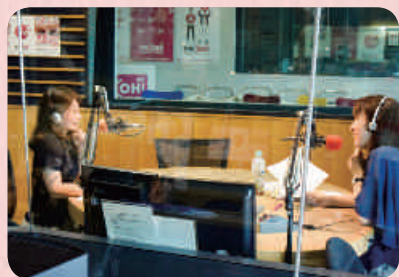




学生の暮らし支える寮のチューター



堅忍寮の食堂で学生と談笑する信國さん(左)



信國 佐代子さん

健康・スポーツ科学部

健康・スポーツ科学科2016年卒

堅忍寮チューター

熊本の高校で2年生からカヌーを始め、夢中になりました。武庫川女子大学なら、カヌー部があり、小学校の先生にもなれると知って、進学を決めました。

大学の4年間、中央キャンパスに近い堅忍寮に入寮し、カヌー一色で過ごしました。部室から、自分の艇をかついで武庫川まで運ぶんです。川に下ろすのも引き上げるのも自分で。河口の約2キロを、週6日、何度も漕いで往復しました。自己最高の成績は2013年の全日本長良川カヌー長距離選手権大会での8位入賞。初めての表彰台でうれしかったですね。

卒業後は堅忍寮で、チューターをしています。武庫川女子大学の寮は全国でも珍しい教育寮で、寮監寮母のほか、寮生をサポートするチューターが住み込み、寮生と寝食を共にします。

現在、5つある寮の中で、堅忍寮が一番厳しいといわれています。ルールを守らなかったときは、程度に応じてペナルティがつく「黒丸制度」があるんです。無断外泊や門限遅れは一回で黒丸3つがつき、2週間外出禁止です。



学校は行っていいんですが、部活動は禁止。空き時間は寮に帰ってきてもらいます。買い物もできないので、必要なものがあれば、友達に頼むしかない。掃除当番を忘れてたり、深夜に洗濯機やドライヤーを使ったりしても黒丸がつきます。100人以上が一緒に暮らしているので、ほかの人の迷惑を自覚するためのルールなんです。

実は私も寮生のころ、外泊簿の日にちを間違えて無断外泊扱いになり、2週間外出禁止になったことがあります。カヌーから2週間も離れるのは初めての経験でしたが、普段は顔を合わせない寮生と接したり、いつもと違う景色に気づいたり、生活の見直しになりました。

学生時代、学校や部活で嫌なことがあっても、寮に帰ると仲間がいて、寂しいと感じたことがありません。今は寮生から「今日、こんなことがあった」「試合で勝った」など、話を聞くのがうれしく、楽しみです。寮生活がいろんな人に支えられていることに改めて気づき、感謝しています。

ラジオ出演を終えて

1 出演した感想

ラジオ局での収録ということもあり、緊張しました。

2 出演の前後で

気持ちや暮らしに変化は

自分が学生だったときのことを振り返ることができたので、悩んでいる学生がいたら、自分の経験を交えてアドバイスするようになりました。

3 武庫女とMUKOJOラジオに

期待すること

在学生や卒業生にとっても、自分の知らない武庫女”を知るきっかけになると思います。多くの人にこの番組を知ってもらい、聞いてほしいです。





自然の中で主体性をはぐくむ

— 丹嶺学苑研修センター —



加治 由佳子さん

文学部教育学科初等教育専攻人間関係
コース1990年卒。丹嶺学苑主任指導員

西崎 果菜さん

短大生活造形学科インテリアコース
2015年卒。丹嶺学苑指導員

加治：丹嶺学苑は1981年、神戸市北区の緑豊かな自然の中に、宿泊研修施設としてオープンしました。学生に本物を見る目を養ってほしいという初代学院長・公江喜市郎先生、二代目の日下晃先生の思いから、北欧製のすてきな家具をそろえ、館内はとてもきれいです。2016年、リニューアルして、より快適に利用いただけるようになりました。一部屋に2段ベッドが4台あり、補助ベッドを入れると10人が泊られます。

私は主に施設の維持管理や研修の企画運営などを行っています。大学3年のとき、丹嶺のお手伝いをしたのがきっかけで、この仕事に就きました。山とキャンプが好きな私には理想の職場です。

西崎：丹嶺では毎年、大学と短大の1年生が初期演習の一環で、1泊2日の研修を行います。学科のプログラムをはじめ、コミュニケーションゲームや野外クッキングを通して主体性を養い、今後の学生生活に必要な、気づきの機会になっています。

加治：学生同士はもちろん、先生との距離も縮まります。

2017年6月28日放送

第

13 回



西崎：野外クッキングは火を起こすところから
始めます。材料もグループごとに自分たちで
分け、役割分担して作業を進めます。

加治：学生を見ていると学科ごとに特色があっ
て面白いですよ。

西崎：例えば英語文化学科はアクティブで積
極的。音楽学部はチームワークがよくて、な
ぜか体育会系。健康・スポーツ科学科は素
直で元気いっぱい。薬学部や看護学部はま
じめで頑張り屋さんが多いですね。日本語
日本文学科はちょっぴり控えめです。

加治：学生にアンケートすると、来る前は「めん
どくさい」という声が、終わると「楽しかった、
また行きたい」と変わります。仲良くなりすぎ
て、研修後は授業中のおしゃべりがうるさ
くなるという先生の声も聞かれます。寝食を
ともにして、互いに信頼関係を築き、安心し
て大学生活を過ごしてもらいたいですね。

西崎：体験にまさる情報はないと思うので、学
生のうちにいろいろチャレンジしてほしいで
すね。

加治：2017年5月にホームページをリニュー
アルしました。Facebookには、研修の様子
や卒業生向けのイベントの告知もアップし
ていますので、のぞいてみてください。





自分のファッションブランドを立ち上げて



松浦 あやさん

生活環境学部

生活環境学科2012年卒

ファッションデザイナー



ファッションブランド「ayyatsuura」のデザイナーとして、年に1、2回、展示会で商品を発表しています。店舗はもたず、販売はウェブとSNSが中心です。

デザイナーになりたいと思ったのは、小学生のころ。それまでファッションに全く興味がなかったのですが、主人公がデザイナーをめざすマンガ「ご近所物語」を読んで、「こんなキラキラした世界があるんや」と、気づいてからは、もう、夢はデザイナーしかなかったですね。

中学進学を前に、将来は武庫川女子大学の生活環境学科に入ると決意し、一貫校の附属中学を受験しました。デザイナーになるために何をすればいいか、中学生では具体的には分かりません。感性を磨こうと、マーチングバンド部に所属。音楽やパフォーマンスを通して、「見せ方」や「表現」を意識したことは、大いに役立っています。

大学ではアパレル業界の仕組みから、繊維、染色、デザイン、マーケティングまで、幅広く勉強しました。大学2年のとき、コンテストに応募



するため、初めて作品を作りました。チューブトップでミニ丈の真っ白のワンピース。お尻がふわっと膨らんで、雪だるまみたいな感じです。自分のイメージを忠実に再現したのですが、審査員には伝わらず、奮起するきっかけになりました。

卒業後、企業で働いた後、専門学校に入り直し、自分のブランドを立ち上げました。そこからは手探りです。縫製の工場をどうするか。生地をどこから仕入れるか。店舗は持つか持たないか。販路はどうか。何より自分がどういう方針でいくのか、戦略が必要です。私、身長が172センチあるんです。かわいい服を着たいけれど、サイズがない。だから、大きい人が着られる可愛い服を作りたいかった。幼少期からサイズの都合上、着せられていたメンズ服に対する愛着もあり、「かわいい男性用の服」で、自分の世界を表現しようと思いました。

2016年11月、韓国で、これまでの作品をそろえたファッションショーをしました。国内では10月末ごろに、次の作品の展示会をします。新しいアイテムが並ぶので、ぜひ来てください。

ラジオ出演を終えて

1 出演した感想

とても有意義な経験でした。自分のブランドの情報発信になりましたし、自分を振り返るよい機会になりました。

2 周りの反響

両親は放送日に聞いてくれました。在学中の研究室の先生が聞いてくれたと人づてに聞きました。

3 出演の前後で

気持ちや暮らしに変化は

出演したことを経歴に記載したり、話のネタにしています。出演することで人とのつながりができ、私の仕事を見てくれる人の幅が広がりました。今回の出演では、普段はできないような人とのつながりができ、感謝しています。出演してよかったです。

4 武庫女とMUKOJOラジオに

期待すること

今後いろいろな方の出演を楽しみにしています。このような取り組みが着実に広がって、リスナーが増えることを願っています。





私が受け継ぐ民謡のバトン



岡部 祐希さん

音楽学部応用音楽学科1年

民謡歌手、民謡指導者

民謡サークルに通う祖母に付き合っ、3歳から民謡に親しみました。5歳のとき、民謡民舞少年少女西近畿連合大会に出場し、3位に。自信を持って臨んだ全国大会で、レベルの高さに圧倒されました。「真剣に民謡を勉強したい」と、子ども心に決意。発声から習い直し、8歳のとき、同じ大会の西近畿で優勝しました。全国大会では10位に入り、リベンジを果たしました。

民謡は、東北民謡、お座敷歌といわれる西もの、沖縄や鹿児島島の島唄、の大きく3種に分かれます。東北民謡も、津軽民謡をはじめ、南部民謡、秋田民謡に分類され、それぞれ歌ごとに専門家がいるほど、奥が深い世界です。楽譜がなく、口伝で伝えられていく場合が多いです。

高校生のとき、津軽民謡を始めました。津軽民謡は三味線も太鼓も歌もお囃子も独特のアレンジを入れて目立とうとする、ジャズ的要素があると感じています。津軽民謡の大家である東京の福士豊秋先生のもとに、年4、5回通ってお稽古を受けました。高校卒業後は、





豊秋先生に弟子入りするつもりでしたが、大学で自分の幅を広げてからでも遅くないと考え、高校の先生の勧めもあって、武庫川女子大学の音楽学部に進学を決めました。

今、西洋音楽を基礎から勉強中です。音楽療法もまだ導入ですが、猛勉強しています。民謡では高校1年で指導者の資格を取得。自宅で教室を開き、お子さんから、60歳代の方まで教えています。今年5月、青森県の弘前市民会館で開催された2017桜花グランプリ争奪第32回津軽五大民謡全国大会津軽じよんがら節部門で優勝し、3連覇を果たしました。今後も7月に産経民謡大賞、8月に日本民謡ヤングフェスティバル2017全国大会と、大会出場が続きます。去年より今年、今年より来年と、いい歌が歌えるよう、頑張っていきます。

民謡歌手として歌い続けるのも夢ですが、もう一つの夢が、民謡を後世に残すこと。東京オリンピックもありますし、日本のソウルミュージックを世界に届けたい。あわよくばJポップのように、若い人に人気が出たらうれしいですね。

ラジオ出演を終えて

- 1 **出演した感想**
入学してすぐでしたが、ラジオで民謡のことを取り上げていただきとてもうれしかったです。
- 2 **周りの反響**
周りのみんなが喜んで聞いてくれました。
- 3 **2で印象的な言葉、リアクション**
良い機会を与えていただけたと親戚一同感謝しております。
- 4 **出演の前後で気持ちや暮らしに変化は**
民謡を中心に新しいジャンルの音楽を広げ、マルチな歌手になりたいと思うようになりました。
- 5 **武庫女とMUKOJOラジオに期待すること**
さまざまな分野で活躍されている方々のこれからは後押ししていただけたらと思います。





学生アスリートを支えるスポーツセンター



ハンマー投げをする浅田さん
(第60回 関西実業団陸上競技選手権大会)



浅田さん(中央)、三好さん(右)



三好 雅之さん

学生課・スポーツセンター職員

浅田 鈴佳さん

健康・スポーツ科学科2010年卒、
学生課・スポーツセンター職員

三好: 武庫川女子大学では2017年2月に、スポーツセンターを開設しました。センターでは、スポーツをキーワードに大きく3つの側面から学生を中心にサポートします。一つは学業との両立。本学は14の強化指定クラブがありますが、全国や世界をめざす学生アスリートは、競技力アップのために、時間をとられる傾向があります。こうした学生に対し、本分である勉強がおろそかにならないよう、サポートします。2つ目は健康な身体づくり。スポーツにあまり関心のない学生や運動不足の教職員が身体を動かすよう、環境を整備します。3つ目は、大学のある鳴尾地域の方々に向けたスポーツ教室「スポーツクラブ武庫女」の運営です。子どもからお年寄りまで、地域の皆さんがスポーツに親しみ、健康を増進できるよう、大学として協力させていただきます。

浅田: スポーツセンターの職員をしながら、ハンマー投げのアスリートが続いています。先日、大阪・ヤンマースタジアム長居で開催された日本陸上競技選手権大会で自己ベストを3メートル更新し、3位に入賞しました。地元



の開催で、たくさんの声援を受け、成績も出せて、人生で最高に楽しい試合になりました。

中学で陸上を始め、短距離、円盤投げと変遷し、ハンマー投げを始めたのは大学から。大学3年するとき、全日本インカレで3位入賞、他大学の大学院に進み、同じ全日本インカレで優勝しました。その後、本学の健康・スポーツ科学科で助手をしながら競技を続けたのですが、結果が出ずに苦しい時期がありました。3年目に開き直って臨んだ日本選手権で3位に入賞でき、「今」と「自分」に焦点を当てる大切さを学びました。

出勤前に1時間、朝練をして、勤務後、午後6時過ぎからグラウンドで2時間くらい練習します。これだけ競技を続けても、毎回、新しい自分に会えるんです。学生アスリートで成績が伸びず悩んでいる人はたくさんいると思いますが、失敗してもいいから、恐れずやりたいことに挑戦してほしい。若いときの経験が大事です。三好：浅田さんは、朝も夜も練習をして、仕事も手を抜かず、きちんとこなして、メリハリをつけるところに感心させられます。

ラジオ出演を終えて

浅田鈴佳さん

- 1 出演した感想**
塩田さんの素晴らしいリードで、緊張もさほどなく、楽しんで収録ができました。声だけで自分の伝えたいことを簡潔に言う難しさを知りました。
- 2 周りの反響**
友人、家族の反応はととてもよかったです。
- 3 出演の前後で気持ちや暮らしに変化は**
出演したことで、MUKOJOラジオの裏側を知ることができ、MUKOJOラジオを聞く楽しみが増えました。

- 4 武庫女とMUKOJOラジオに期待すること**
出演者にとっても、リスナーにとっても、様々なことを学ぶ良い機会だと思います。MUKOJOラジオの良さがもっと多くの人に伝わってほしいです。

三好雅之さん

- 1 出演した感想**
良い経験をさせてもらったというのが率直な感想です。
- 2 周りの反響**
両親が聞いてくれました。
- 3 2で印象的な言葉、リアクション**
父が録音していたと母から聞きました。
- 4 出演の前後で気持ちや暮らしに変化は**
スポーツセンターを知っていただく良い機会をいただきました。ラジオ番組を意識して聞くようになりました。

- 5 武庫女とMUKOJOラジオに期待すること**
多様な人が集まり、多様な道に巣立っていく武庫川女子大学の良さがよく伝わる番組だと思います。受験生がこの番組を聞いたなら、武庫女を身近に感じ、安心してもらえると思います。



京の花街に夢追って



尾上 智子さん

文学部人間関係学科2001年卒
京都上七軒の芸妓・梅葉

京都北野天満宮近くにある花街・上七軒で芸妓をしています梅葉と申します。

小学校の卒業文集に「夢は舞妓」と書いたくらい、小さいころから舞妓さんに憧れていました。祖母の影響で着物が好きどしたし、かわいらしい着物を着て、お稽古に行くイメージがあったんだと思います。

附属中学から大学まで武庫川学院で過ごす間も、夢は持ち続けていましたが、親戚の集まりで、ぼろっと「舞妓さんになりたい」と言ったら、父が激怒したことがあり、半ばあきらめていたんです。でも、花街に対する憧れは募り、とりあえず京都に出ようと、卒業後、京都のお料理屋さんに勤め始めました。そこの料理長さんが「芸妓から出る子、いるよね」と、うちに言わはったんですね。え、舞妓でなくても、なれるんだ、と。いてもたってもいられず、すぐ、電話帳で目についたお茶屋さんに電話しました。で、今の屋形のお母さんに拾っていただいて。そこからのスタートですね。

芸妓になることを父に報告したとき、父は青天の霹靂という感じで、10日間、口をきいてくれま





せんでした。10日目に「自分の道やな、決めたんやな、仕方ないな」と言ってくれて。屋形では、芸妓なら住み込みで5年、奉公するしきたりで、つらいこともおしたけれど、あそこまで父に言わせて今さら帰れへん、という気持ちで頑張れました。

お座敷に出るときは、芸妓は日本髪を髪をかぶり、裾を引いた着物に帯を二重太鼓に結びます。お客さまとお話したり、お酌をしたり、余興で舞を舞ったり、お三味線を弾いたり。最近のご家族で見えるお客さまもいますし、女性ばかり20人の団体が芸妓や舞妓を呼んで、お座敷遊びを楽しまれたこともあります。女性の方が遊び上手ですね。父は今では一般の人が参加できる「春の踊り」や夏のビアガーデンに来てくれます。うちの写真を友達に見せて自慢しているらしいですよ。

芸妓であることは、うちの誇りです。お座敷は姉さんたちが受け継いできた日本独自の大事な文化ですし、うちもそれを継いで、下の世代に手渡す使命があると思うんですね。やりがいもおすし、芸妓でいられてよかったと思います。

ラジオ出演を終えて

1 出演した感想

ラジオ出演は本当に楽しく貴重な経験をさせていただきました。

2 周りの反響

他の芸妓さんに比べてラジオ出演や講演などの機会が多いので、感心されます。

3 2で印象的な言葉、リアクション

お茶屋さんのお母さん、姉さん方には「よう あんだけしゃべらはることやわ」と、ほめて(?)もらいました。

4 出演の前後で

気持ちや暮らしに変化は

何事も経験して、それを引き出しのひとつとして仕事に生かすことができると思っています。ラジオ出演も お座敷でのお客さまとのやり取りに活用させてもってます。

5 武庫女とMUKOJOラジオに

期待すること

お客様に「武庫女を卒業しました」と申しますと、皆さまに「良い学校だね」とほめていただきます。これからも「武庫女=良い学校」だと言われ続けてほしいですね。





被爆者の体験を伝える



小国 美弥子さん

文学部国文学科1987年卒、
院文学研究科国語国文学専攻
修士課程1990年修了
読売新聞大阪本社で校閲を担当

新聞社の校閲は、記事の誤字脱字はもちろん、用語のスタイルが統一されているか、見出しや写真説明が記事の内容と合っているか、事実誤認はないか、等をチェックする仕事です。読者として読んだとき、分かりやすいか、も気にします。いわば「最後の編集、最初の読者」です。表に出ない仕事ですが、テレビドラマ「校閲ガール」が放送されたおかげで、校閲を理解してもらいやすくなりました。

仕事の傍ら、広島市の被爆体験の語り部として活動しています。被爆者が高齢化し、被爆体験を語る人が少なくなってきたため、2012年、広島市が「被爆体験伝承者」の養成に乗り出しました。広島はゆかりがなかったのですが、これに応募し、何度も通って、研修を積みました。私は17歳で被爆した細川さんという男性から話を聞き、細川さんらの語り部を務めていますが、原稿チェックや話し方の指導を経て、認証を受けるまで3年かかりました。

細川さん自身は頑丈な建物内にいて助かったのですが、当時、中学1年生だった細川さんの妹は、学徒動員で屋外で作業中、亡くなりま





メディアホールで行われた小国さんの語り部の授業

した。その妹さんが中学入学から被爆の前日まで、欠かさずつけていた日記には、ごく普通の13歳の女の子の日常がつづられています。危険な場所に行く兄を「神様、どうかお守りください」と、気遣う記述もあり、戦争の残酷さが胸に迫ります。細川さん自身が被爆体験を語る時、妹さんの日記も大切な語りの題材にしていたことから、私もそのスタイルを引き継いでいます。

広島平和記念資料館で、当番制で語り部をするほか、修学旅行で広島に行く関西の小学生らに、事前学習として被爆者の体験を伝えています。武庫川女子大学でも、共通教育の「戦争と女性」という授業で、年2回、ゲストスピーカーとして話します。すすり泣く学生さんもあり、「自分も何かしなければ」という気持ちになってくれるのがうれしいですね。

身近なところに、まだ知らない戦争の記憶はあるはず。武庫川学院も1945年6月15日の空襲で、校舎の一部を焼失しました。そのとき、校祖公江喜市郎先生や生徒らはどんな思いで学校を守ったのか——。学生に知ってほしいと思います。

ラジオ出演を終えて

1 出演した感想

緊張しました。塩田さんの的確なリードに感謝です。

2 周りの反響

娘が附属中高のOG（今、大学生）なので、附属中高時代のママ友にお知らせしました。武庫女の番組があることを皆さんご存じなかったので、大学の様子を知ることができ、とても喜んでおられました。保護者の多くが娘の通う大学の情報をもっと知りたいと思っいるようですが、ホームページや広報誌以外に大学のことを知る方法があまり知られていないと感じます。この番組がもっと広まって、口コミで武庫川女子大学の魅力が伝わることを期待します。

出演したことで、周りから私の活動にも理解をいただきました。武庫女の歴史にも興味を持ってもらえました。

3 出演の前後で

気持ちや暮らしに変化は

「こんな調子で自分は話していたんだ」と、客観的にわかる貴重な機会でした。話の「間」を前よりも考えるようになりました。目で読む「言葉」と耳だけで聞く「言葉」の面白さと難しさも感じました。

4 武庫女とMUKOJOラジオに

期待すること

貴重な番組だと思うので、いっそうの啓発、広報をお願いします。



トルコから建築を学びに来た2人



ハンデさん(左)、ベイザさん(右)



塩田さんと大和郡山市を訪れた二人

ゴンジャ・ハンデ・シヤヒンさん
院生活環境学研究科建築学専攻研究生

ベイザ・ヌル・ボズクルツさん
院生活環境学研究科建築学専攻修士課程修了生

ハンデ: 2012年にトルコから、交換留学ICSA in Japanのプログラムで武庫川女子大学にきました。美しい甲子園会館や現代デザインの建築スタジオのあるキャンパスは、それ自体がデザインや構造の教科書です。学生たちはフレンドリーで、先生も面倒見がよくて、「ここで学びたい!」と、大学院に入学しました。

研究しているのは、日本の伝統的な庭の庭石について。庭石はただ置いてあるのではなく、職人さんがいろんな角度から石の“顔”を見て、組み合わせや表現を考えます。一見、捨てたように見える石にも深い意味があるのを知って、「すごい!もっと調べたい!」と思いました。今、尼崎市にある工場の庭の設計に携わっているのですが、ここでも庭石がたくさん使われています。お気に入りの石に名前をつけているんですよ。

私は安藤忠雄さんの作品が大好き。特に初期の代表作「住吉の長屋」は、大学2年生のときに見て、感激しました。コンクリートなのに、自然を感じながら住める家というのが新鮮です。

将来はトルコで自分の建築事務所を開い



て、建築デザインをすると同時に、先生になりたいと思います。

ベイザ：2012年に交換留学プログラムで来たときは短期間だったので、今度はちゃんと日本に住んで、日本の生活を完璧に経験したいと思い、再来日して大学院に入学しました。修士研究では、京町屋とトルコの伝統的なサフランボル住宅の生活態度や宗教文化による空間構成の特徴を比較研究しました。京町屋には神棚や仏壇があるけれど、トルコではメッカの方向に向かって礼拝するだけで、シンボリックなものは何もありません。調べるとほかにも違いと共通点がありました。大学院の演習では、阪神電車「鳴尾駅」の新築工事に参加し、ホーム床のモザイクタイル画をデザインしたのも楽しかったです。

私も安藤忠雄さんの作品が大好き。日本に来る前から代表作の「光の教会」に興味があり、実際に見学して、正面のクロス（十字架）から光が聖堂内に差し込むのがかっこいい！と思いました。また、日本では普通の住宅でも門の形が一つずつ違う。建築士でなくても、みんな建築に興味を持っているみたいと感じています。

博士後期課程を終えたらトルコに帰り、先生として、学生に日本の建築や文化をしっかりと教えたいと思っています。

ラジオ出演を終えて

ゴンジャ・ハンデ・シャヒンさん

- 1 出演した感想**
緊張しましたが、どんどん自分のやっていることや、興味があることを話せて楽しかったです。
- 2 周りの反響**
友人が「二人とも日本語でラジオに出演したことに驚いた」と、言っていました。
- 3 2で印象的な言葉、リアクション**
「すごい！」と言ってもらいました。
- 4 出演の前後で気持ちや暮らしに変化は**
考えていることを伝えるために、もっといい表現方法を探すようになりました。
- 5 武庫女とMUKOJOラジオに期待すること**
もっと多くの人に番組を知ってほしいです。

ベイザ・ヌル・ボズクルツさん

- 1 出演した感想**
日本で日本語でラジオで話すのは、大事な初体験になりました。
- 2 周りの反響**
周りにラジオに出ることを連絡していたので、みんな楽しみに聞いてくれました。
- 3 2で印象的な言葉、リアクション**
短い間に日本語のレベルが上がったと言われました。
- 4 出演の前後で気持ちや暮らしに変化は**
出演したおかげでDJの塩田さんや、大学の広報スタッフの方々と仲良しになりました。いっしょに建築を見に遊びに行って、楽しい一日を過ごしました。



女子大の薬学で化粧品を学ぶ



石井さん(左)、菅沼さん(右)



菅沼 薫さん

薬学部非常勤講師

ビューティ&ライフサイエンティスト

石井 美月さん

薬学部健康生命薬科学科4年

菅沼:女子大薬学部の特長を生かした健康化粧品コースの「実践化粧品学」で、化粧品技術の変遷やトレンドについて、講義しています。化粧品は皮膚の機能が解明されるにつれ、進化しています。その時代の人々の心に呼応しているので、化粧品の変遷を眺めるとトレンドが見えてきます。

石井:私は化粧品に無関心でしたが、3年生のときにこの授業を受けて、化粧品が作られる過程や、肌質による化粧品の選び方など、大人になっても使える知識が得られました。

菅沼:春から真夏にかけての紫外線は要注意です。紫外線には波長の長いUVA(A波)と、波長の短いUVB(B波)があり、A波は皮膚の奥まで届いて、長く浴びると蓄積されます。真夏はB波が多いので、夏の光はやけどしそうに熱いでしょ。紫外線は直射光だけでなく、アスファルトの道路やビルの側面などに反射して注ぐため、日焼け止めは必須です。日焼け止めの外箱に、よく数字とプラスマークが書いてありますね。数字はSPFといって、B波をカットする能力を表し、50がMAXです。プラスマークはA波をカットする力を示し、プラス



4が最強です。日常の散歩や買い物程度なら、SPF20前後、プラス2くらいで十分です。

スキンケアの基本は、洗顔、保湿、日焼け防止です。クレンジングと洗顔料のダブル洗顔で、汚れをしっかりと落としてください。目の周りは力を入れず、指の腹で細かく動かす。ほおは掌を使って大きく動かします。

石井：先生の授業で聞いてから、ダブル洗顔しています。

菅沼：水分をふき取ったら、すぐに化粧水をつけること。何もつけずに時間をおくと、肌が持っている水分まで蒸発してしまって、肌がどんどん乾燥してしまいます。5分遅れると20%保湿力が奪われます。

夏から秋にかけては美白化粧品を上手に使い、秋から冬にかけては気温も湿度も下がって皮膚が乾燥しやすくなるので、乾きが気になる部分に保湿効果の高いクリームや美容オイル等を使ってみてください。

また、スキンケアは身体の外からだけでなく、内側からのケアも考えてほしいですね。皮膚は内臓と同じで、たんぱく質で構成されるので、肉や魚を食事として十分に摂ることが大事です。さらに、女性は特に体を温める食材や調理法を選んでください。冷えるといろんなトラブルが出てきます。

石井：秋に向けて頑張ろうと思います。

ラジオ出演を終えて

菅沼 薫さん

1 出演した感想

楽しい収録でした。もっといろいろお話ししたかったです。

2 出演の前後で

気持ちや暮らしに変化は

自分の生活はとくに変化していませんが。

3 武庫女とMUKOJOラジオに

期待すること

受験生を対象に、大学での講義・学習や生活などを伝えるのもいいと思いますが、一般リスナーに向け、暮らしに役立つ情報を発信することも、大学のイメージを伝える効果があると思います。ラジオ放送にLINEやライブ映像、インスタ、ツイッターを連動して、ますます番組を盛り上げてください。

ちょっとメモ

本学の薬学部は6年制の薬学科と4年制の健康生命薬科学科がある。薬剤師養成の薬学科に対し、健康生命薬科学科は研究、企業、教育など多方面で活躍する人材の育成をめざす。進路や希望に応じたきめ細かな履修モデルコースを設けており、中でも健康化粧品コースは人気が高い。実践化粧品学は第一線で活躍する美容師や研究者を講師に招き、化粧品を選択・使用方法や研究・開発について具体的に学んでいる。



病気の子どもたちに笑顔届ける ー クリニクラウン



クリニクラウンとしてベッドサイドに立つ藤本さん



藤本 真実子さん

短大人間関係学科1992年卒

「認定NPO法人日本クリニクラウン協会」
のクリニクラウン

クリニクラウンは病院の「クリニック」と、道化師の意味の「クラウン」を合わせた造語で、入院中の子どもたちを訪問する道化師のことです。私たちは人を集めてパフォーマンスを見せるのではなく、赤い鼻とカラフルな衣装をつけて入院中の子どものベッドサイドを訪れ、子どもらしい時間を過ごすお手伝いをしています。私が所属する「日本クリニクラウン協会」では2016年度、北海道から沖縄まで全国44病院の小児病棟を定期的に訪問し、約8000人の子どもたちと関わりました。

大学でレクリエーションを学び、人を楽しませる心得はありましたが、結婚後は1男2女の子育てに忙しく、自分のことは後回しでした。長女と次女がそろって受験勉強に取り組む姿を見て、私も何か挑戦したいと思っていたとき、偶然、クリニクラウンの活動を新聞で知り、「やってみよう」と思い立ちました。子どもたちも「お母さんやってみたら」と、背中を押してくれました。

約1年間の養成期間を経て認定試験に合格し、活動をスタートしました。初めて病院を訪れたとき、子どもたちが笑顔で迎えてくれて、



赤い鼻がトレードマーク 藤本さん(右)

「遊びたい！」気持ちが全身から伝わってきました。遊びの内容など関わり方は、その子の状態をみて、即興的に変えていきます。楽器を鳴らしたり、皿回しに挑戦したり。夢中で遊ぶ子どもたちを見て、スタッフやお母さんたちも笑顔になります。日頃しんどい治療に耐えている子どもたちの、明るい様子を見られるのは、親としてうれしいですね。

あるとき、「家族以外になかなか心を開かないお子さんがいるので、関わってほしい」と、病院スタッフから依頼がありました。クリニックラウンが訪れても、眉間にしわを寄せて、受け入れてくれません。でも、何度か訪問するうちに、「あ〜」という声を出すようになり、こちらも同じように「あ〜」と返しているうち、会話みたいになってきて。訪問のたびに距離が縮まり、先日訪問したときは、私たちの動きをベッドから目で追い、帰りは「バイバイ」と手を振ってくれました。こんな風に、子どもの成長や変化を家族やスタッフと共有できるのも、定期訪問ならではのです。

つらい治療と向き合い、頑張っている子どもたちのそばに、いつの間にか寄り添い、楽しい時間を届けてくれる——そんなクリニックラウンを目指して、これからも活動を続けます。

ラジオ出演を終えて

- 1 **出演した感想**
伝わる話し方など、勉強になることがたくさんありました。
- 2 **周りの反響**
同級生が「武庫女がラジオ番組を持っている」ことにとっても驚いていました。
- 3 **2で印象的な言葉、リアクション**
「武庫女って経営上手やな〜」。
- 4 **出演の前後で
気持ちや暮らしに変化は**
耳で聞くだけの媒体で自分の伝えたいことがどうすれば分かりやすく伝わるのか考えるようになりました。
- 5 **武庫女とMUKOJOラジオに
期待すること**
女子大ならではの、女子が主体となって輝けたり、自主性を持って活躍できたりする環境であってほしいです。





飲める？飲めない？ アルコール体質診断



木下 健司さん 薬学部教授



遺伝子は一人ひとり少しずつ異なります。その違いが、薬の効き方に影響します。例えば、鎮痛剤は主に3種類ありますが、なんとなく自分はこれが効く、という鎮痛剤があるはず。遺伝子タイプによって、最適な薬が分かれば、効かない薬をだらだら飲む必要がなくなり、出費も体の負担も減らせると考え、遺伝子を簡単に測定する方法の開発に取り組んできました。

ただ、薬の場合、どうしても飲む人が限られ、サンプル数が集まりません。そこで、アルコールが体質に合うかどうか、つまりお酒を飲める、飲めないの研究を通して、効き目のメカニズム解明を進めています。酒を飲める人はどんどん代謝するので酒量が増える。薬の代謝の良い人が、効果を求めて薬の量が増えてしまうのと同じです。

当初は髪の毛で遺伝子タイプを調べていましたが、髪の毛を抜くのはちょっと痛い。今は口の中の粘膜を棒状のスポンジでこすり取るだけで検査ができます。結果はAからEの5段階で表します。Aは少し飲んだだけで陽気になる人。白人と同じタイプです。Bは代謝がよくて、



酔えない。つい酒量が増えて、濃い酒に走りま
す。Cは翌日に酒が残り、二日酔いします。病気
になりやすいので、最も気を付けるべきタイプ
です。Dは一杯で真っ赤になる。Eは全く飲めな
い下戸です。Eの人は飲めない酒を無理に飲ま
なければ、健康に長生きできるでしょう。

このアルコール検査の開発にあたり、九州7
県の大学の農学部系学部が協力してくれました。
6年前から毎年、入学式後のオリエンテー
ションで実施している九州大学農学部はこの
検査を取り入れてから、一度も飲酒事故がな
いそうです。

一気飲みなど、飲めない人が無理をして飲
むと、健康を害する恐れがあります。女性は男
性より若干、飲める酒量が少ないので、自分
にとっての適量を経験から割り出してください。

体質を知れば、飲酒事故や飲酒にまつわる
病気が減り、医療費も下がります。20歳前の
若者全員に、アルコール体質検査を実施して、
若い人の飲酒事故撲滅に役立てたいと思っ
ています。

ラジオ出演を終えて

- 1 **出演した感想**
初めての経験で非常楽しかったです。
- 2 **周りの反響**
Facebookで紹介したら、「いいね」をいっぱいもらいました。評判は良かったですよ。
- 3 **2で印象的な言葉、リアクション**
私の動向を気にかけてくれる人がいることに感動しました。

ちょっとメモ

バイオサイエンス研究所とは

1995年に設立された本学の附属
研究所。学部学科の領域を超えて研
究員が参加し、生命科学、分子生
物学、生理学、薬理学、栄養学、食品
化学または倫理学など、広範囲にわた
る研究に取り組んでいる。木下教授
も研究員の一人。





めざすは東京オリンピック

— 躍進する体操部



大野 和邦さん
体操部監督

三井 正也さん
健康・スポーツ科学部教授
体操部部長

平岩 優奈さん
健康・スポーツ科学部
健康・スポーツ科学科1年

刀根 綾菜さん
健康・スポーツ科学部
健康・スポーツ科学科1年



2017年 西日本インカレ優勝

体操部は2015年、日本代表コーチの経験も豊富な大野氏を監督として招へい。大野監督就任後、体操部は年々インカレでの順位を上げており、「最も東京五輪に近いクラブ」として、期待が高まっている。

体操部は第71回全日本学生体操競技選手権大会(8月、富山市総合体育館)の女子団体総合で準優勝。平岩さんは跳馬、平均台、床で2位入賞を果たした。

平岩: 結果には満足していません。平均台は1位と僅差だったので、悔しい気持ちが残ります。着地でちょっとバランスを崩して減点されました。床は納得する演技ができました。高校1年で世界戦の代表に選ばれたとき、帯同してくれたのが大野監督です。そのとき、いっしょに世界で演技しよう、と声をかけていただいたのが忘れられません。世界で戦える選手を目指します。

刀根さんはユニバーシアード競技大会(8月、台湾台北市)で、体操女子日本代表として、出場。女子団体に3位入賞。大野監督は女子日本代表コーチとして団体チームをサポートした。

刀根：私にとって初の日本代表の試合で、初の国際大会、初の海外と、初めて尽くし。跳馬と平均台の2種目に出て、自分の演技ができました。大野監督は意見を聞くと、こうしたらいいんじゃないか、とか、もっとこう、やってみたら、と的確なアドバイスをくださるので、ありがたいです。

大野：平岩選手は脚力が強い上に美しいラインが出せるのが魅力です。平均台の上で、片足を曲げ、片足を伸ばし、3回ターンする技は、世界的にもできる人が少ない、彼女のオリジナルです。刀根選手はオールラウンダーで、まんべんなく得点をとれるタイプ。コツコツ努力して、課題をクリアして、ステップアップしていく模範的な選手です。体操競技は、人間が日常生活ではしない動きをしようとするスポーツなので、恐怖心がつきまといます。それを乗り越え、できないことに立ち向かうには精神力が必要です。それを指導する僕自身も、教える難しさに直面しますが、どうすれば伝わるか、楽しみながら取り組むことを自分に課しています。選手が結果を出してくれると、「伝わった」と感じて、うれしいですね。

三井：頼もしい一年生2人を得て、体操部としても2018年はいよいよ全日本インカレ優勝を狙います。武庫川女子大学では2月にスポーツセンターが発足し、全学を挙げて運動部の強化を支援する体制が整いました。東京オリンピックに向け、高まる期待に応えていきます。

ラジオ出演を終えて

大野和邦監督

- 1 出演した感想**
スタジオの仕組みを見ることができて面白かった。
- 2 周りの反響**
聞いたよ！などの声をいただいた。
- 3 ②で印象的な言葉、リアクション**
体操部の活躍を応援し、関心を持ってくれている人がたくさんいることが分かり、うれしかった。
- 4 出演の前後で気持ちや暮らしに変化は**
これまで以上に言葉の選択や、トーンに気を付けるようになった。
- 5 武庫女とMUKOJOラジオに期待すること**
夢の実現に向け努力する学生のナマの声を伝えるラジオは、多くの若者に刺激を与えようと思う。継続して情報を発信していただきたい。

平岩優奈さん

- 1 出演した感想**
終始緊張していてあまり上手く話せなかったけど、すごく楽しかった。もっと頑張ろうと思えました！
- 2 出演の前後で気持ちや暮らしに変化は**
四年後の東京オリンピック出場の夢をかえるために一年一年を大切にしたいと思い、以前よりも練習に身が入るようになりました！
- 3 武庫女とMUKOJOラジオに期待すること**
もっと自分の気持ちをしっかり伝えられるように頑張るのでもた出演させてください！お願いします！

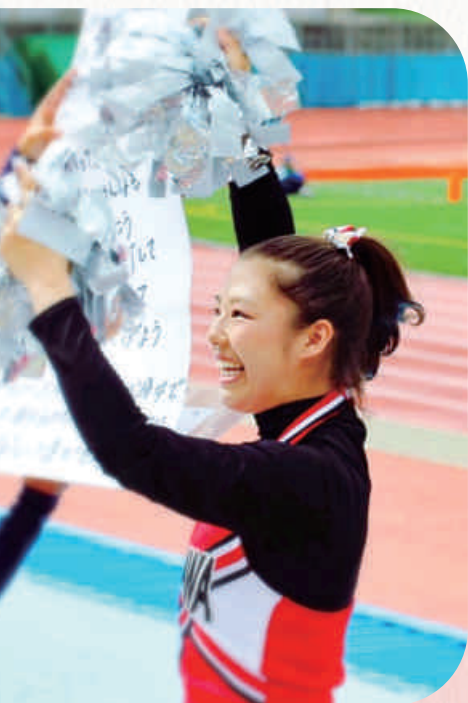
刀根綾菜さん

- 1 出演した感想**
いるいと新鮮で、たくさん学べた一日でした。
- 2 周りの反響**
ラジオ出演すると母に伝えたら、すごいじゃん、頑張ってるね、と応援してくれました。
- 3 ②で印象的な言葉、リアクション**
母「そんなこともするのね、さすが武庫女」。
- 4 出演の前後で気持ちや暮らしに変化は**
来年の目標を語ったので、実現するために頑張ろうという思いが強くなりました。
- 5 武庫女とMUKOJOラジオに期待すること**
キャンパス内でラジオを聞けるところを増やしたら、もっとたくさんの人に聞いてもらえると思います。



心を一つに

ーバトン・チアリーディング部



西村 くるみさん

健康・スポーツ科学部

健康・スポーツ科学科3年

バトン・チアリーディング部主将

武庫川女子大学のバトン・チアリーディング部は1年生から4年生の計26人で活動しています。企業等のオファーを受けて、社会人チームのバレーボールや野球の応援に行ったり、地域のお祭りに参加して華を添えたりします。2017年、広瀬すずちゃんが主演した映画「チア☆ダン」が話題になりましたが、フロアでダンスをするチアダンスに対し、組体操のようになって、人を宙に飛ばしたりするのがチアリーディングです。

チアリーディングのポジションは、上に乗ったり、宙で技をする華形の「トップ」、トップを持ち上げたり、飛ばしたりする「ベース」、その後ろに立って、司令塔の役割をする「スポッター」の主に3つがあります。私はスポッターとして、音楽に合わせてカウントを取っています。トップと息を合わせ、気持ちを一つにしなければ、高く飛ばすことはできません。練習も大事ですが、日頃から仲間と信頼関係を築くよう心がけています。

2016年はUSAジャパン2016大阪大会で2位。過去に1位を取ったことがある大会なので、トロフィーが取れず、悔しかったです





ね。この大会はチアダンスの出場校が多いため、2017年は新たなチャレンジとして、チアリーディングの強豪校がひしめく日本チアリーディング協会第26回関西選手権大会に初出場しました。成績のつかないエキシビションでしたが、改めて他校のレベルの高さに圧倒され、「私たちも頑張らなければ」と、スイッチが入りました。

高校までカンフーとダンスを続け、チアリーディングを始めたのは大学生になってからです。ずっと個人競技だったので、団体競技は初めて。先輩後輩の秩序、頑張れる環境づくり、団結力の大切さ等、学ぶことばかりです。12月3日には、恒例の冬の単独公演「YELL」を西宮アミティホールで開催します。ダンスやバトン、フラッグを使ったペップアーツなども取り入れた見ごたえのある舞台です。衣装も全部手作り。照明や音響も自分たちで手掛け、部員全員で作り上げる1年間の集大成です。4年生にとっては引退公演なので、絶対成功させたいです。動くこと、スポーツすることが好きなので、体育の先生を目指し、勉強も頑張ります。

ラジオ出演を終えて

1 出演した感想

話しながら、「自分はこう思っていたのか」と、私の中でも発見がありました。

2 周りの反響

私が出演してから、祖母は毎回MUKOJOラジオを楽しみにしています。たくさんの方から「聞いたよ」と言ってもらえました。もっとたくさんの人に部活動のことを知ってもらいたいと思いました。

3 2で印象的な言葉、リアクション

ゼミの教授に「声からパワーと明るさが出ていて、さすがチア部だね」とほめてもらいました。うれしかったです。

4 出演の前後で

気持ちや暮らしに変化は

自信につながりました。

5 武庫女とMUKOJOラジオに

期待すること

私は、この大学の在生学生として誇りをもっています。高校生るとき、武庫女に入りたくて受験勉強を頑張りました。今、このように武庫女生生として勉強でき、たくさんの仲間と切磋琢磨しながら部活動に励めることを、とてもうれしく思います。もっとたくさんの方に武庫女の素晴らしさを知ってもらいたいです。



言葉のなぜ？を探って — ブログに見る現代日本語



岸本 千秋さん

文学部国文学科1988年卒

武庫川女子大学言語文化研究所助手

言語文化研究所では、現代日本語をはじめ、英語、中国語など、多言語にわたって“ことば”の研究を進めています。言葉に関心の高い人なら、誰でも参加できる「LC倶楽部」は、会員が約140人にのぼり、「ことばのサロン」や「オトナのための日本語塾」で、活発な意見交換をしています。「言語文化セミナー」や「言語文化シンポジウム」など、公開イベントも定期的に開催しています。

私は「コトバ」の中でも、ブログに焦点をあてて、研究をしています。「ブログに出てくる顔文字や星、ハートなどは、どんな働きをしているんだろう」と考え、記号のある文、ない文で文字数や品詞を調べました。記号がある文の方が、有意に文字数が少なく、感動詞や副詞が多く含まれているという結果が出ました。

そもそもブログは日記でありながら、閉じたノートに書くのではなく、全世界に公開されています。誰でも見られるところに、なぜ日記を書くんだろう、という疑問から、読み手を意識した表現を調べたところ、12種の特徴が見られました。

ちょっとメモ

言語文化研究所とは

コトバの分析を通して、社会と社会に生きる人々を考察する本学の附置研究所。その成果を集めた「LCりぼーと」など、ユニークな研究内容はマスコミからの注目度も高い。英語、中国語にコトバのフィールドを広げ、多言語、多文化社会に対応する研究に取り組んでいる。





オトナのための日本語塾

「ですます調」、記号の多用、自分で書いておいて「なんでやねん」と突っ込む、「ですよね?」と語り掛ける文末表現——。書き手の真意を確かめるため、アンケートを取ったところ、「読み手を意識している」「意識していない」の両方の意見がありました。ただ、「意識していない」グループでも、読み手を意識した表現はあります。潜在意識に「自分を知ってほしい」「誰かとつながりたい」という願望があり、より伝えたいがために、記号で飾り立てたり、文字の大きさを変えたり、行間を大きく開けて、間を取るとか、表現上の技術を駆使する傾向が感じられました。

「なんでだろう」という疑問を抱き、それを解明するために研究方法を考え、実際に解明できたときの喜びが研究の醍醐味です。私は個別の事象をいくつか集めて、「一つ一つはバラバラだけど、全体としてこういうことがいえるよね」と、一般化したい。もっといえば、「普遍的である」と提示したい。それができたとき、「私の研究って、端っこにあるのではなく、ちゃんと中央にありますよ」と、言える気がします。

ラジオ出演を終えて

1 出演した感想

塩田さんが上手に誘導してくださったおかげで、自分の研究内容をリラックスして話すことができました。興味深く聞いてくださり、感謝しています。

2 周りの反響

家族は、話した内容より、「ラジオに出た」ことを喜んでくれました。

3 2で印象的な言葉、リアクション

当日、頼んでもいないのに、ラジオ局まで夫が車で送迎してくれるVIP扱いでした。

4 出演の前後で

気持ちや暮らしに変化は

研究を通して自分がその先に何をしようとしているのか、公に「しゃべった」ことで、よりクリアになりました。「誰もまだ気づいていないけれど、実は法則や傾向がある日本語の(小さな)現象をあぶりだすことによって、個別の現象だったものを一般化する可能性に、私は面白さを見つけようとしているんだなあ」と、いうことです。

5 武庫女とMUKOJOラジオに

期待すること

MUKOJOラジオのスタッフの皆さんに、楽しく元気にお仕事を続けてほしいです。



被災地・大槌町で感じたこと



子ども夢ハウスの前に立つ多鹿さん



風の電話の前に立つ中安さん

多鹿 春菜さん

文学部心理・社会福祉学科4年

中安 瞳さん

文学部英語文化学科1年

多鹿：東日本大震災の被災地である岩手県大槌町にこれまで3回、ボランティアに入りました。3年前、初めて訪れたとき、あったはずの家は津波で流され、あるのは土と草と山だけ。ここに家があって家族がいたんだ、と思うと、大きな悲しみに襲われました。2017年の夏、2年半ぶりに訪れると、同じ場所に新しい家がたくさん建ち、子どもたちの声が聞こえ、少しずつ町になっているのを感じました。

被災地では、「子ども夢ハウス」に遊びに来る小学生のお世話をします。一緒に鬼ごっこしたり、ご飯を食べたり。実は前回、心残りがあったんです。私になついてくれた女の子がいたんですが、私が「明日帰るよ」と言うと、急に態度がよそよそしくなって。「バイバイ」も言えなかったんです。その子と今回、偶然再会し、屈託なく、好きな男の子の話なんかしてくれて、うれしかったですね。

ボランティアに行くまで、大槌町と縁もゆかりもなかったけれど、今は離れていても、そこにいる人が心に浮かびます。日頃は忙しさに取り紛れても、細く長く、つながってい



たい。子どもたちにとっても、ふと思い出す存在になれたらいいな、と思います。

中安：1年生対象のゼミで、先生から現場に行くことの大切さを教えられ、この夏、「子ども夢ハウス」でボランティアをしました。滞在中、震災で親しい人を亡くした人がよく来るという「風の電話」を訪れました。普通の一軒家の庭にある真っ白な電話ボックスですが、設置されたダイヤル式の黒電話は線がつかないんです。もともとガーデンのオブジェとして設置されたのが、いつの間にか亡くなった家族や友人に思いを伝える場所になったそうです。

ボックスに1冊のノートが置いてあります。初めの方のページには「なんで死んだの」「そっちに行きたい」と嘆く書き込みが多いけれど、最近では「また来るね」「頑張るよ」と、前向きなメッセージが目立ちます。私は「震災からもう6年」と思っていたけれど、現地を訪れて、「まだ6年」という遺族の方の気持ちが少し分かった気がします。残された人の、前を向こうとする気持ちを支え、みんなで復興を目指したいと思います。

ラジオ出演を終えて

多鹿春菜さん

- 1 出演した感想**
最初は緊張しましたが、あっという間の大変楽しい30分間でした。
- 2 周りの反響**
普段話さないことをラジオで発信でき、感想を聞けたことがうれしかったです。母は「おばあちゃんにも聞いてもらおう」と録音してくれていました。
- 3 出演の前後で気持ちや暮らしに変化は**
ラジオで話した体験について、より自信を持てるようになりました。また、「言葉をもっと大切にしたい」「もっと周りに発信できる人になりたい」と思うようになりました。

4 武庫女とMUKOJOラジオに期待すること

女子大として、女性が社会でより自分らしく輝ける人材育成、女性がより活躍できる環境づくりをしてほしいと思います。

中安 瞳さん

- 1 出演した感想**
いい思い出になりました。ラジオに出演することで4年生の先輩とも仲良くなれましたし、さらに人のつながりができました。今までお世話になった方々に、今の私を伝えることができてうれしかったです。
- 2 周りの反響**
みんな驚いていました。
- 3 2で印象的な言葉、リアクション**
一歩先を見たしっかりした意見で驚いた、良かったと言ってもらいました。
- 4 出演の前後で気持ちや暮らしに変化は**
大学に入ってからすぐ、このような機会をいただけて、すごく自信につながりました。
- 5 武庫女とMUKOJOラジオに期待すること**
輝いている武庫女生をたくさん発掘してほしいです。



武庫川学院を愛して 一祖母、叔母、孫の3世代武庫女生



祖母と幼いころの姉妹(前に立っているのが麻奈さん)



小学生を指導する在りし日の祖母

青木 麻奈さん

短大日本語文化学科2005年卒

青木 理紗さん

短大日本語文化学科2011年卒

理紗：祖母・森田和子は昭和25年に開校した短大Ⅱ部の一期生。叔母は音楽学部でヴァイオリンを専攻しました。私と姉は附属幼稚園と短大の日本語文化学科で学び、3世代続く武庫川学院(以後武庫川)OGです。

麻奈：祖母は戦争中、20歳から尼崎の小学校で教壇に立ちましたが、戦後、ちゃんとした資格が必要になり、昼は先生をしながら、夜、教員免許取得のための勉強ができる武庫川に進学しました。武庫川が大好きで、校祖の公江喜市郎先生を大尊敬していて、2016年5月に91歳で亡くなるまで、武庫川の生徒のような気持ちを持ち続けました。

私たち姉妹も「女の子なら武庫川が一番」と、物心ついたころから聞かされていました。私が武庫川の短大に進学を決めると、手をとって「こんなうれしいことはない」と、大喜びしてくれました。妹が進路に迷っていると「あんたも武庫川へ」と。孫だけでなく、教え子の小学6年生の女子が「武庫川の中学を受験する」というと、大喜びしたそうです。

理紗：私たちが「MUKOJOラジオ」に出ると聞



塩田さんを囲んで。左が理紗さん

いたら、祖母は喜んだでしょう。今日も「行ってくるよ」と、祖母の写真に声をかけて出てきました。

麻奈：先生としての祖母は熱血系。生徒やその親との絆も強くて、商店街で買い物をするれば、「先生、お肉安くしとくわ」と声がかかり、生徒さんに頼られると、勤務外でもすぐ駆けつけたそうです。オンもオフもなくずっと先生でした。

理紗：みんなのお母さんの存在でした。本人も勉強が大好きで、特に英語はずっと勉強していました。

麻奈：それにおしゃれでした。女学校を卒業するとすぐ、洋裁学校に通って洋服づくりを覚え、戦後は自作の洋服を着て、髪型も洋風にアレンジして、高いヒールをはいて教壇に立ったそうです。車の免許もいち早く取得し、真っ赤な車を乗り回していたんですよ。

私たち姉妹にとっても、武庫川は大切な存在です。祖母からいつも武庫川の教えを聞かされ、幼稚園や短大で大切な恩師に出会い、たくさんの思い出ができました。これからも祖母をお手本に武庫川を愛し、祖母のような女性を目指します。

ラジオ出演を終えて

姉：麻奈さん

1 出演した感想

妹と二人で祖母の大好きな武庫川学院のことを語れた貴重な体験でした。

2 周りの反響

母がラジオを聞いて、「感無量」と話してくれました。家族であらためて武庫川の良さを実感しました。

3 出演の前後で気持ちや暮らしに変化は

収録前は祖母の人生を語りきれるか、不安でしたが、皆さんに聞いてもらえた事は、一生の思い出となりました。時々、ラジオに出たことが夢だったように感じます。祖母に会いたいと思う日が増えました。脳梗塞で話ができないまま亡くなって寂しい気持ちでしたが、ラジオ出演が癒やしてくれました。

4 武庫女とMUKOJOラジオに期待すること

母校のラジオ番組は私たち卒業生に生きる指針を与えてくれると思います。

妹：理紗さん

1 出演した感想

出演するだけでなく、収録の現場を見ることができ、大切な思い出になりました。

2 周りの反響で印象的な言葉、リアクション

人前で泣かない母が涙を流して聞いていました。母が「私もおばあちゃんが素晴らしい教師だったことを、もっと周りに語れば良かった」と言っていたのが印象的でした。

3 出演の前後で気持ちや暮らしに変化は

出演前は祖母の死を受け入れられず、祖母のことを思い出したり、人に話したりすることが難しい時期もありましたが、思い切って出演したことで、一つ壁を乗り越えることができました。人の役に立つ仕事、女性として活躍できる仕事をしたいと思うようになりました。



国際女性ビジネス会議に参加して



国際女性ビジネス会議の会場で

日置 彩菜さん

文学部英語文化学科4年
第22回国際女性ビジネス会議に参加



卒業後はイギリスの大学院に進学しようと、今、猛勉強中です。3年の夏から就活を始めましたが、やはり勉強を続けたくて、大学院進学に切り替えました。イギリスを選んだのは、イギリス文学が好きだから。女性の精神的自立を描いた作品に心ひかれます。

2017年7月、東京で開催された「国際女性ビジネス会議」に参加して、いろんな方から後押しをもらいました。この会議は、日本最大の女性会議で、女性の社会進出やキャリア形成、リーダーシップをテーマに毎年、開催されています。約1000人の参加者の9割が女性。午前には講演、午後は分科会のように、テーマ別に分かれて討論します。

誰でも参加可能ですが、私は参加費をスポンサーが負担するスポンサーシップ制度を利用しました。事前エッセーを提出してスポンサーがつくと、会議の1日、スポンサーの方と行動をともにして、直接お話しできるのも、この制度の魅力です。

会議で、印象に残った言葉が2つあります。一つはカルビーの会長の講演。「男性の意識



をどう変えるか」というテーマに対し、「男性の意識が変わるのを待っていたら500年かかる。男性の既得権益をどう奪うかを考えなければならぬ」と、おっしゃったことに、はっとしました。もう一つは脳科学者の茂木健一郎さんの言葉です。「男女は科学的に能力は変わらないので、インディビジュアルに活躍すべき」と、おっしゃいました。これからは、個人の能力が問われる、というメッセージに、「やっぱりそうだ」と、意を強くしました。

子どもの頃、「女はかいがいしく動くべき」という昔かたぎの祖母と、兄と私を平等に扱った父の、相反する価値観に、戸惑いながら育ちました。就活中、他大学の男子学生から「女子大は苦労知らずのお嬢さま」という目で見られたのも、「女性ってなんだろう」と、突き詰めるきっかけになりました。

私は女性だから、男性だから、ではなく、「この人だから」という理由で社会に求められたい。まだ夢は絞り切れていないけれど、自分の能力を磨き、生かせる道を、大学院進学を通じて、考えたいと思っています。

ラジオ出演を終えて

1 出演した感想

普通の学生生活ではなかなかできない有意義な体験でした。

2 周りの反響

たくさんの人から「聞いたよ!」「ラジオ、出たね」と言われました。思っていた以上に反響がありました。

3 2で印象的な言葉、リアクション

「Twitterでみたよ」とツイートした収録風景のスクリーンショットを送ってきてくれた友人が何人かいて、驚きました。

4 出演の前後で

気持ちや暮らしに変化は

出演してから、よりいっそう、自分が武庫女生であることを自覚するようになりました。自分が何か行動するとき、自分の所属に関心を持つようになりました。

5 武庫女とMUKOJOラジオに

期待すること

活躍しそうな人、活躍中の人をフィーチャーしてほしい。「なにか」を極めている人のお話はとても興味深いです。





開館60年の逸翁美術館で企画展



宮井 肖佳さん

文学部

日本語日本文学科2001年卒

阪急文化財団 逸翁美術館学芸員



逸翁美術館は、阪急電鉄や宝塚歌劇の創始者である小林一三氏が、生涯にわたって集めた約5500件の美術品を収蔵し、展示している美術館です。逸翁は小林氏の雅号です。5500件の内訳は、国指定重要文化財15件、重要美術品20件のほか、絵画・書蹟が1600件、陶磁器が2500件、その他が1300件くらいです。

高校1年のとき、国語科の先生が学校の俳句集を作ろうと全校生徒から俳句を募集し、私の作品も選ばれました。そのとき、講評してくれたのが、柿衛文庫(伊丹市)の学芸員でした。初めて知る学芸員の仕事に、「私に向いてるかも」と興味を持ちました。学芸員の資格がとれる大学を探し、武庫川女子大学に進学を決めました。

海外ではキュレーターとして、専門性の高い職業と目される学芸員ですが、日本ではあまり認知されていません。「展示室で座っている人」と、誤解されることが多く、残念です。実際の学芸員の仕事は収蔵品の研究、研究成果をもとにした展覧会開催、他館への貸し出し、教育活動など、多岐にわたります。美術品の研究を進



めると同時に、私は小林氏が残した膨大な量の手紙等の紙資料を研究し、人物像を明らかにしようと取り組んでいます。小林氏は基本的に日記資料を多く残していますが、戦争中などの日記が抜け落ちていて、空白を他の資料で埋める作業が追い付いていません。でも、断片的な情報をつなぎ合わせて、筋道が見えてきたときは楽しいですね。学芸員に向いているタイプは、気になったことをすぐ調べる人。空振りもいとわず、可能性のあるところに足を運ぶネットワークの軽さが必須です。

やりたいのは、近代の工芸作家や工芸品の価値の再編集。近代はなかなか調べものが進んでおらず、鑑賞するための美術品か、使うための工芸品か、線引きが難しい。でも、作者を直接知る人に聞き取りするラストチャンスの時節なので、早急に研究が必要な分野です。

2017年は逸翁美術館が開館して60周年の節目の年で、1年で6回の企画展を開催します。10月28日から、私が企画した「ひねもす蕪村 絵と俳句」が始まります。今、準備の最終段階で、ドキドキしています。

ラジオ出演を終えて

1 出演した感想

電話でのラジオ出演は経験がありました。目の前でDJの方とやり取りする出演は初めてだったので緊張しました。やはり実際に掛け合いをさせていただく方がスムーズだな、と思いました。

2 武庫女とMUKOJOラジオに期待すること

母校がこういうラジオ番組を持っていることが、もっと外部の人にも伝わればいいと思います。

ちょっとメモ

本学では博物館学芸員課程を置いて博物館に関する科目を開講している。必要単位を修得すれば、卒業と同時に博物館学芸員の資格を得ることができる。大学日本語日本文学科の学生が取得可能。学外の博物館等で実習するほか、本学が所蔵する約4万点に及ぶ美術品、工芸品、着物、絵画等の資料を利用して、学内で展示実習を行う。





絵本作家の夢をつかんだ『ウォールズ』



ありま 三なこさん

生活環境学部生活環境学科2009年卒
絵本作家

三という数字が好きで、ペンネームも本名の「み=三」だけ漢字で表記しています。子どもに読みやすく、初対面の人には印象に残るようです。

幼稚園のころから絵を描くのは大好きでしたが、習ったことも、絵本を作ったこともなかったんです。初めての作品は、大学の卒業制作で作った仕掛け絵本。このとき、絵本の魅力に目覚め、「わあ、自分に合ってる!」と思ったのですが、すでに卒業目前。商社に就職も決まっていたので、いったん気持ちを封印し、就職したものの、あきらめきれなくて。こんな熱い気持ちがあるのに、挑戦しなければ一生後悔すると思い、思い切って商社を退職。絵本の専門学校に入り直しました。

絵本を作るには、作品を出版社に売り込むか、大きなコンペの副賞として出版するか、2つの道がありますが、どちらも狭き門です。2016年、公私にわたって4つの目標を決め、「2年で実現できなければ田舎に帰ろう」と、自分を追いこみました。

目標の一つが絵本で賞をとること。まず、最





中央図書館で行われた ありさんの絵本展

も応募数が多いフジテレビKIDS主催の第8回be絵本大賞に応募しました。「一次審査だけでも通過できれば励みになる」と思っていたのが、なんと大賞を受賞。審査員が満場一致で選んでくださったと聞いて、号泣しました。小さいころから、私は周りに「変わっているね」と言われることが多く、自分の考えを理解してもらえない寂しさがあったんです。だから、自分の表現に共感し、認めてもらえたのが何よりもうれしかった。

受賞作品の「ウォールズ」は、いろんな人が壁に感謝するストーリーです。壁というと、マイナスのイメージがあるけれど、人を支えたり、乗り越える達成感を与えてくれたり、プラス面もあるんだよ、と伝えたかった。

今は絵本のほか、イラストやグッズ制作をして、個展やイベントに出展しています。バカでまじめでクスッと笑える愛らしさが、私の描くキャラクターの特徴です。まさに私自身の分身です。

新たな目標は二冊目の絵本出版と、海外での展示です。いろんなところで、私の作品を目にしていだけるよう、頑張ります。

ラジオ出演を終えて

1 出演した感想

新聞や雑誌など文面でのインタビューと違い、自分の声で届けることも大切と感じました。終わった後は、もっとこう伝えればよかったと反省の嵐でしたが、また出たいです。

2 周りの反響

面白かったと言っていただけでした。

3 出演の前後で

気持ちや暮らしに変化は

メディア出演は多くの人に私を知ってもらえるチャンスなので、絵以外の表現方法も上達できるように頑張ります。番組で曲をリクエストしたのですが、いずれは音楽とアートを融合させた活動もできれば、と思いました。一番変わったことは、スマートフォンにradiko.jpのアプリをダウンロードして、久しぶりにラジオを聞き始めたことです。

4 武庫女とMUKOJOラジオに

期待すること

武庫川女子大学が関西はもちろろん全国を代表する女子大になることを期待しています。ラジオ番組を持っている大学も珍しいと思います。もっともっと新しいことにチャレンジしてください。



記憶を風化させない — 報道記者として



中村 和可奈さん

文学部日本語日本文学科2014年卒
読売テレビ報道局記者



読売テレビの報道記者になって4年。今は関西の鉄道やメーカーを中心に運輸・経済分野を担当しています。

中学2年のとき、ミュンヘンオリンピックのテロを題材にした本を読み、事件の壮絶さと、自分の「知らなさ」にショックを受けました。そのとき、「知らないことを、人に伝える仕事かしたい」と思ったのが、記者をめざす原点です。

はっきり報道記者を意識したのは、武庫川女子大学で、元新聞記者の河内鏡太郎教授が担当する「ジャーナリズム論」の授業を受けてから。この授業では毎回、小論文を提出するのですが、あるとき「報道に興味がありませんか」と、コメントをいただいて。「伝える仕事かしたい」という原点とリンクして、目標が定まりました。

河内先生から「現場を知ることが大事」と教えられ、東日本大震災から1年後、被災地を訪れました。たまたま入った食堂で、店の人に「ここにはもっと店があったけど、今はうちだけなんだ」と、聞かされました。現場に行くと、伝えなければならない情報はおのずと入ってくる



——。記者として現場に立つたび、その思いを強くしています。

駆け出しの2年間、凶悪事件を扱う大阪府警の捜査一課を担当しました。事件事故はいつ起きるか分からない。夜中にデスクからの電話でたたき起こされ、メイクもせず、ぼさぼさの髪で飛び出すこともありました。

被害者や遺族を取材するのはつらいことです。私は心を開いてくれるまでテレビカメラも入れず、メモも取らない。4年でまだ取材に至っていないご遺族もいますが、先走らず、寄り添うことを徹底しています。

やっていたよかったと思うのは、視聴者から反応があったとき。熊本地震を取材したVTRをきっかけに、東北の方から連絡をいただき、被災地支援につながったときは、うれしかったですね。

どんな事件事故も、いつか忘れられ、人々の記憶にとどめるのは難しい。でも、過ちを繰り返さないためには、記憶を風化させてはならないのです。「風化と闘う」を、私のキーワードの一つとして、これからも取り組んでいきます。

ラジオ出演を終えて

1 出演した感想

私が学生の間にこの番組があれば、将来の選択肢が広がっただろうと思います。学生にとってOGの“今”を聞ける貴重な番組であり、一般の人に武庫女がいかに素晴らしいかを伝えられる場でもあるので、長寿番組化を目指していただきたいです！

2 周りの反響

番組を通して初めて、私の仕事内容や報道に対する思いを知ることができたと多くの人から言われました。また、決して有名人ではないOGが次々に出演する番組はあまり聞いたことがないが、聞き入ってしまい、あっという間に時間が過ぎた、との意見もありました。

3 2で印象的な言葉、リアクション

「武庫女めっちゃいい学校やな!」と数人の友人から連絡がきたことです。私の回を聞いた後に、ポッドキャスト等で他のOGたちの回も聞いたそうで、多岐にわたって活躍する卒業生と、そのありのままの姿を紹介してくれる学校の在り方に感心したとのことでした。





アスリートを栄養面からサポート



成田 厚子さん

生活環境学部食物栄養学科1999年卒
公認スポーツ栄養士
武庫川女子大学非常勤講師

公認スポーツ栄養士は、アスリートの体作りを栄養面からサポートする職業です。資格取得には、栄養だけでなく、スポーツも勉強する必要があり、試験は口頭試問中心で難関です。

この仕事を目指したのは、高校生のとき、ダイエットに挑戦したのがきっかけでした。カロリー計算をしながら料理を考えるのが思いのほか、楽しくて。バスケットボール部を、貧血と、けがでやめた直後でもあり、将来、栄養とスポーツに関わる仕事に就きたい、と考えるようになりました。管理栄養士を養成する大学は地元名古屋にもありましたが、総合大学で幅広く学べ、スポーツも強い武庫川女子大学に進学。在学中から、目標とする仕事に就くため、自分なりにできること、やるべきことを探して取り組んできました。

その母校で、今、研究と共通教育の非常勤講師をしています。授業は学生に栄養の基礎知識を持ってもらい、食生活に反映してもらうのが目標です。お昼休み後の授業なので、「さっき食べたお昼ご飯がおなかの中でどう

ちょっとメモ

生活環境学部食物栄養学科は入学定員200人。大学の管理栄養士養成課程としては全国有数の規模だ。国家試験合格率は高く、合格者数も多い。国際感覚のある管理栄養士を育てるため、希望者を対象に、本学のアメリカ分校で海外研修プログラムを展開。語学研修のほか、ワシントン州立大学の管理栄養士学科との交流や近隣の医療施設の見学などを行っている。



アスリートを指導する成田さん

なっているか」「今日、まだ摂取できていない栄養素は何か」「夕食に何を食べればいいのか」など、具体的にお話しします。特に意識してもらおうのがたんぱく質。肉、魚、卵、乳製品、大豆食品の5品目を必ず毎日網羅するのが基本です。たんぱく質は20種類のアミノ酸で構成されるので、まんべんなくいろんな食材を食べることで、必須アミノ酸を偏らず摂ることができます。

研究面では、食事の内容の改善によって、体脂肪率や筋肉量がどう変化するかを調べ、エビデンスを積み上げています。食事が運動能力やパフォーマンスの向上に直結することが、数値やデータで明らかになれば、アスリート自身、もっとやる気が出ると思います。

私は運にも恵まれて夢をかなえることができましたが、スポーツ栄養士はまだ、職業として確立したとはいえず、働く場は限られます。私たち先駆者が成功事例を示すことで、後に続く方々の仕事が増えるはず。「スポーツ栄養士を雇ってよかった」と言われるよう、頑張ります。





音楽で患者さんに寄り添う



澤木 見佳さん

音楽学部 声楽学科 音楽療法コース
2011年卒
兵庫県立尼崎総合医療センター音楽療法士

小さい頃から歌うことが大好きで、附属中高ではコーラス部に所属しました。大学進学を前に、将来、音楽に関わる仕事がしたいけれど、プロの演奏家にはとてもなれない、音楽の先生になるのも難しい、医療にも興味があるしーと、迷っていたとき、大学に音楽と医療の両方に関わる音楽療法コースがあるのを知り、「ここしかない!」と。日本音楽療法学会が認定する音楽療法士養成のカリキュラムに添っているので、資格試験受験もスムーズでした。

卒業後は、兵庫県立尼崎病院に音楽療法士として就職。塚口病院と統合して尼崎総合医療センターになってからも、引き続き勤務しています。

主に神経内科と小児科の患者さんを担当しています。音楽療法士は、歌ったり遊んだりしているように思われがちですが、患者さん一人ひとりに合う曲を選んで、対応しています。例えばパーキンソン病で声が出にくい方には、呼吸法や体を動かし、声を出しやすくします。歩行するとき、一歩目が出にくい方には、音楽に





合わせて1、2、1、2、とリズムを刻むと、ぱっと一歩が踏み出せます。

小児科では血液疾患で入院しているお子さんを見ることが多いです。リコーダーやピアノの練習をしたり、歌で気分転換したりして、治療への意欲を持ってもらえるよう、サポートしています。

皆さん、歌うと笑顔になります。最初は「音楽療法って何をさせられるんだろう」と構えている方も、終わると「楽しかった、ありがとう」と言ってくださいます。「音楽をしている間は痛さを忘れていた」という声も聞くので、短時間でも痛みや苦しさを忘れられる時間を提供したい。ただ、音楽って効果を数値で示しにくいんです。緩和ケアの段階に入って、音楽をする余裕もなくなった患者さんに何もしてあげられず、ジレンマを感じることもあります。

まだ珍しい職業ですが、「入院したとき、音楽療法士がいて、楽しかったな」と、少しでも人の記憶に残る音楽療法士を目指したいですね。

ラジオ出演を終えて

1 出演した感想

音楽療法を分かりやすく伝えられるか不安でしたが、塩田さんのリードのおかげで楽しく収録できました。

2 周りの反響

「明るい声と聞き取りやすい話し方で、内容も興味深かった」「医療現場の音楽療法をイメージしづらかったけれど、放送を聞いて初めて詳しく知ることができた」と感想をいただきました。

3 2で印象的な言葉、リアクション

語彙を増やし、人前で話すときの言葉を学ばなければ、と思いました。言葉の選択の難しさを痛感しました。

4 出演の前後で

気持ちや暮らしに変化は

改めて命の重みを感じながら、患者さんと音楽を通していい時間を過ごせるよう、笑顔を絶やさないよう、いっそう心がけるようになりました。

5 武庫女とMUKOJOラジオに

期待すること

毎週、様々な方が登場し、総合大学の素晴らしさを感じています。



全日本インカレ6連覇達成 — 東京五輪めざすカヌー部



橋本 千晶さん

カヌー部コーチ

1992年文学部教育学科体育専攻卒。
院健康・スポーツ科学研究科 健康・
スポーツ科学専攻修士課程2014年修了

松永 あゆりさん

前キャプテン (健康・スポーツ科学科4年)

薦田 遥さん

現キャプテン (健康・スポーツ科学科3年)

武庫川女子大学のカヌー部は前回の東京オリンピックが開催された1964年に発足し、今年で54年の歴史がある。2010年に強化クラブに指定。石川県小松市で2017年8月22日から27日に開催された第53回全日本学生カヌースプリント選手権大会(インカレ)で総合優勝し、2012年から6連覇を達成した。東京オリンピック出場に期待がかかるクラブの一つだ。

橋本:コーチである私自身、武庫川女子大学のOGです。大阪の高校時代はバレーボールをしていましたが、何か違うことに挑戦したくて、大学からカヌーを始めました。練習はしんどかったけれど、個人競技が性に合っていた。社会人になってもカヌーは続け、一度は一般企業に勤めたものの、台湾でカヌーの指導をしたのをきっかけに、指導者の道に進み、縁あって母校のコーチになりました。

カヌーは全身運動なので、筋肉をつけることよりも、使えるパワーをつけ、体をしなやかに使いこなすトレーニングに力を入れています。インカレ6連覇をステップに、世界で戦える選手を育て、東京オリンピック出場を目指したいと思っています。

松永:カヌーを始めたのは、福岡の高校に入学してから。川をすいすい漕いでいくカヌー部の練習を見て、「楽しそう。私もやりたい」と、入部しました。水面の近さや水上から見る景色もすでに、非日常感が面白くて。カヌーはよく転覆するんですが、乗れるようになると楽しくて、漕げる距離が伸びるにつれ、夢中になりました。そのときのコーチが武庫女のOGで、橋本



コーチの教え子だったことから、武庫女を勧められ、「絶対行きたい」と、思ってここに来ました。

橋本：教え子の教え子がそうやって入ってきてくれるのは、すごくうれしいですね。

松永：指導方針が同じなので、すんなりなじめました。橋本コーチは生き方や考え方も成長させてくれる、私にとっては母のような、良き相談相手です。

私はこの夏で引退しましたが、カヌーを通じ、全員で何かを目指して達成した経験を宝物に、社会でしっかり頑張っていきます。

薦田：私は中学まで水泳をしていて、高校からカヌーを始めました。最初は転覆ばかりで楽しくなかったのですが、漕げるようになると、どんどん楽しくなりました。高校のカヌー部の先生が、やはり武庫女のカヌー部OGで、武庫女を勧めてくれました。高校の先輩にも何人か武庫女に進学した人がいたので、私も！と決めました。

今年の夏は連覇がかかった重圧もありましたが、先輩たちの最後の夏を総合優勝で飾りたい一心で頑張りました。新チームの目標はカヤックとカナディアン部門で優勝し、7連覇すること。と同時に、私たちは大学生のチームとして、一人ひとりが自分の目標を立てて、カヌーをしっかり漕ぎ、社会から認められる選手に成長していきたいと思っています。

ラジオ出演を終えて

松永あゆりさん

- 1 出演した感想**
緊張しましたが、塩田さんのサポートでも話しやすかったです。カヌー部の頑張りや楽しさを知ってもらえたらうれしいです。
- 2 周りの反響**
リクエスト曲などで盛り上がったようです。
- 3 2で印象的な言葉、リアクション**
うぉー(笑)!!
- 4 出演の前後で気持ちや暮らしに変化はラジオを聞くようになりました。**
- 5 武庫女とMUKOJOラジオに期待すること**
これからも武庫女のステキなところを発信してほしいと思います。全国放送なら福岡の家族も聞けたので、地方でも放送してほしいと思いました。

薦田 遥さん

- 1 出演した感想**
MUKOJOラジオは知っていましたが、本格的なラジオ番組で、本格的な収録をしていることを、参加して初めて知りました。とても良い体験になりました。
- 2 周りの反響**
クラブの仲間と一緒に聞きました。みんな興味津々でした。
- 3 2で印象的な言葉、リアクション**
「すごーい！」と言いつつ、笑っていました。
- 4 出演の前後で気持ちや暮らしに変化はラジオで目標を言った事が良いきっかけとなり、より練習に勢いが出てきました。**
- 5 武庫女とMUKOJOラジオに期待すること**
もっと多くの人にこのラジオの存在を知り、聞いてもらうきっかけを増やせばいいと思いました。



女子大初、エネマネハウス 2017 に参加



院生活環境学研究科建築学専攻

川崎 祐華さん

修士課程2年

堀内 環美さん

修士課程2年

大原 ころろさん

修士課程1年



「実現可能な一次エネルギー消費量ゼロの家」を学生が提案する建築コンペ「エネマネハウス2017」に、女子大で初めて採択された。12月2日から大阪梅田のうめきたサザンパークでモデル住宅を一般公開する。

「エネマネハウス2017」は、学生が中心となってゼロ・エネルギーハウス(ZEH:ゼッチ)を提案し、実際にモデルハウスを建築して性能を競うコンペです。私たちの提案は、住まう人が自ら家を作り変えることができる「キセカエハウス」です。「キセカエ」とは、冬になるとダウンコートをはおり、夏には半そでに着替えるように、季節や天候と対話しながら、建具などのしつらえを使って住空間を着せ替えるイメージです。図面やエネルギー消費量の計算資料、完成イメージパースや模型写真などを提出して審査を通過したのは5つの大学チーム。すでに会場には5棟のモデルハウスが完成しています。

着せ替えのアイテムとして重要なのが、南側のトップライト(屋根)です。ガラス張りの屋根に、断熱材入りの建具を組み合わせ、その建具を動かすことで室内に取り込む日射のエネルギー量や明るさを調整します。また、蓄熱や蓄冷ができる床、調湿効果のある土壁を施工。その他の開口部も、建具の開閉により、夏は涼しく、冬は暖かく過ごせます。日中に太陽熱をためることで、冬の朝、外気が0℃近く下がる場



合でも、室内を10℃以上に保ちます。

こうした工夫でエネルギー消費量を抑え、太陽光発電で創エネすることで、ゼロ・エネルギーを実現しました。この時間帯にお風呂を沸かしたら、消費エネルギーはどれくらいか、など、ち密にシミュレーションしながら実証実験をしています。

一般公開する住宅は、延床面積が20坪(約66㎡)。建物周囲に人工芝生のシートを敷いて、庭の広がりを出しています。ライフスタイルに応じて、間取りも“着せ替え”が可能です。可動間仕切りを使って、子ども部屋を作ったり、リビングとウッドデッキ、庭を一体化して大人数が集える場所をつくったりしました。

建設は、施工会社の方に任せましたが、キッチン台や洗面台など、インテリアの大部分は自分たちが手作りました。左官屋さんに教えてもらって土壁も塗ったんですよ。

自分たちが考えた建物が、実際に完成したのは感動です。シミュレーションしたことが、どれくらい再現できるか、不安ですが、思った以上に良いものができあがりました。ぜひ、見に来てください。

ラジオ出演を終えて

川崎祐華さん

- 1 出演した感想**
いつもラジオで聞くDJの方の声、目の前で聞こえることにびっくりしました。
- 2 周りの反響**
みんな上手に話してすごいわね!と家族はうれしそうでした。
- 3 ②で印象的な言葉、リアクション**
親戚のおばさんに「すごいわ、なんだか速くなってしまった」と、謎の感動をされて面白かったです。
- 4 出演の前後で気持ちや暮らしに変化は**
建築を言葉で伝えるのは難しいけれど、伝わるように考えることで、よりよい設計につながると思うようになりました。

堀内環美さん

- 1 周りの反響**
よくしゃべっていたよ、という感想をいただきました。担当教員からも好評でした。
- 2 ①で印象的な言葉、リアクション**
映像がない分、具体的なディテールの説明よりもエピソードのほうが伝わるね、という話をしました。
- 3 出演の前後で気持ちや暮らしに変化は**
わかりやすく伝えるために専門家向きと一般向きの両方の語彙が必要と実感しました。
- 4 武庫女とMUKOJOラジオに期待すること**
自分のいる場所と全く別の世界でご活躍されている方々のお話を聞けることを楽しみにしています。

大原こころさん

- 1 周りの反響**
家族だけでなく、友達のお母さんにも聞いてもらえて、けっこういろんな人が聞いてくれているんだな、と感じました。
- 2 ①で印象的な言葉、リアクション**
「キセカエハウスに興味がある」と、言ってもらえて、うれしかったです。
- 3 出演の前後で気持ちや暮らしに変化は**
貴重な体験ができました。
- 4 武庫女とMUKOJOラジオに期待すること**
ラジオを聞いてくれた方が、武庫女に興味を持ってくれたらうれしいです。



世界にたった一冊の本を作る喜び



中尾 エイコさん

短大被服科Ⅱ部 1967年卒

「本のアトリエ・EIKO」(大阪市北区)で
ブックデザイナー

短大2部を約50年前に卒業しました。高校時代からデザインに興味があり、武庫川学院なら、事務局で働きながら、夜勉強できるよ、と聞いて、香川県高松市から進学しました。被服科を選んだのは、デッサンや色彩学、民俗学の授業があったから。卒業後、高松に戻ってNHK高松放送局で美術系の仕事をしていたとき、高校の美術部の先輩で、グラフィックデザイナーの夫と再会し、結婚しました。

ちょうど大阪万博の年で、週一組、パビリオンで結婚式を挙げられる企画に当選したんです。有名人が顔をそろえる豪華な式で、ゲストはなんと、手塚治虫さん!手塚さんが畳ほどの白い紙に、私たち夫婦の名前を取り込んで、即興で漫画を描いてくれたのは一生の思い出です。手塚さんにちなんで、子どもは斗武(トム)とあむと名付けました(2人合わせて“アトム”)。

子育て中も、夫を手伝ってイラストレーターの仕事をしていました。本づくりを始め

「世界に一冊だけの本」が並ぶアトリエで



「あむちゃんの詩」

たのは、娘が2、3歳のころ。おしゃべりがかわいくて、つい書き留めているうち、詩集くらいの分量になったんです。「これを本にしよう」と製本学校に通い、表紙用の布を和紙で裏打ちしたり、紙を綴じたりする技術を学びました。一遍ずつ自分で描いた木版画を添え、表紙に「あむちゃんの詩」とタイトルを付けて、一人悦に入っていたんですが、あるとき、ギャラリーに出品したら、思いがけない高値で売れてしまって。テレビや新聞の取材も入るようになり、製本を教えてほしいという声に押されて教室を始めてもう35年です。

日本古来の和綴りは糸で綴じますが、西洋の本はハードカバーが多いですね。最近のご朱印帳づくりが人気です。文庫本も自分好みの表紙を付けるだけで、世界に一冊の本になります。展覧会やコンクールに出品する大作は60時間くらいかけて作り上げます。楽しいですよ。作れば作るほど、はまります。

人のお役に立てるのも本づくりの喜びです。リハビリ中の人々が描いたスケッチを本にまとめたり、ぼろぼろの絵本がきれいになって、子どもたちの手元に戻ったり。東日本大震災で、がれきの下から出てきた写真を整理してもらおうと、教室のみんなと手分けしてアルバムを100冊作りました。被災地に贈るとすごく喜ばれて。この仕事をやっていてよかったと思う瞬間です。2013年には母校の依頼を受け、懐かしい甲子園会館で「和綴じ」と「スケジュール帳」のワークショップを指導しました。忘れがたい思い出です。

ラジオ出演を終えて

1 出演した感想

武庫川を卒業してからの50年を振り返り、頭の中を整理することができてよかったと思います。いい機会を与えていただき本当に感謝しています。塩田さんの声がステキでした。



自分でデザインした看板の前に立つ
学生時代の中尾さん





コーヒーに魅せられて — 生産者とともに歩む



コスタリカの農園でコーヒーチェリーを摘む
長谷川さん(右)



コーヒーのテイスティング

長谷川 裕加さん

文学部英語文化学科2012年卒
コーヒーマイスター

大学時代、ホテルのロビーラウンジでアルバイトをしていたとき、エスプレッソマシンを導入し、コーヒーを提供することになりました。淹れ方によってコーヒーがチョコレートのようなとろっとした味わいになることに衝撃を受けました。「こんなに味が変わるなんて。私だけの味を出したい」と思ったのが、コーヒーにはまるきりかけでした。

卒業後は洋菓子店でコーヒーのバリスタとして働きました。ラテアートなど表現の幅も広がって、もっとコーヒーそのものを知りたい思いが強くなったころ、焙煎士として有名な元井健さんを雑誌で知り、「元井珈琲マウンテン」に会いに行ったんです。店内では喫茶と豆の卸売をしていて、扱う豆は36種類。買い付けのため、インドネシアやコスタリカ、グアテマラなど、世界各地に足を運ぶ元井さんならではの、土地ごとに異なる文化としてのコーヒー論に引かれ、運よく雇ってもらうことができました。

3年前には、中南米へ買い付けに同行しました。生産者とのコミュニケーションを大切に意



提携農園の生産者のみなさんと

見交換し、オーダーメイドで豆の乾燥工程をアレンジして作ってもらスタイルです。継続して買うことで互いの信頼関係が深まります。

生産者の暮らしや、作物としてのコーヒーをもっと知りたくて、5月まで半年間、コスタリカの提携農園でホームステイしました。コスタリカは中米にある細長い国で、コーヒーの栽培が盛んです。いろんな鳥や動物がいて、海は澄んでとてもきれい。食事は素材の味を生かし、シンプルで健康的です。収穫の時期は朝から夕方まで連日、農園に出て働きましたが、スペイン語に苦労しましたね。やっぱり、母国語で話す方が本音を聞けますから、スペイン語をもっとマスターするために、2018年8月から、語学留学を予定しています。

一方で、コーヒーの花からはちみつを採るプロジェクトを進めています。コーヒーの花を乾燥させた紅茶、コーヒーの実の皮の赤い部分を乾燥させたカスカラティーなど、コーヒーの派生商品を生み出し、畑からカップまで、コーヒーのすべてに関わっていきたいと思っています。

ラジオ出演を終えて

1 出演した感想

とても緊張し、頭が真っ白になって言葉に詰まる場面もありましたが、皆さんがフレンドリーに接してくださったおかげで楽しく終えることができました。

2 周りの反響

ラジオで私の仕事に関する話を聞けると思わなかったからびっくりしたと言われました。

3 2で印象的な言葉、リアクション

「ええ!すごいやん。そうなん!?’
「コスタリカっていう国があるのを初めて知った!」などの驚きの声を多数頂きました。

4 出演の前後で

気持ちや暮らしに変化は

改めて「緊張の時間」を与えていただけただけです。

5 武庫女とMUKOJOラジオに

期待すること

在学生と卒業生、それぞれの得意分野によるコラボレーション企画などが今後もあればいいなと思いました。





スポーツする女性を美しく —魔法のレギンスを開発



穂原 寿識さん
健康・スポーツ科学部
講師

八木 あずみさん
短大 健康・スポーツ学科2年

山際 優花さん
短大 健康・スポーツ学科2年



穂原：僕はスポーツマネジメントやスポーツマーケティングが専門で、ゼミでは商品開発に取り組んでいます。今回、企業と連携して、着圧式タイツ「魔法のレギンススポーツモデル」を商品化しました。2017年12月から、大手インターネット通販サイト「楽天市場」で販売されています。コンセプトは「スポーツする女子は美しい」。筋肉をしっかり持ち上げるとともに、ラッシュガードという素材を使うことで速乾性があり、UVカット効果もあるんです。

学生：日焼けが気になるビーチバレーやサーフィンにも使えます。ももとの商品が、少し高め年齢層をターゲットにしていたので、スポーツ向けにしたら、若い人の興味を引けるかな、と考えました。試作品をゼミ生16人全員が着用して、データを取って、履き心地などを繰り返し提案しました。

穂原：パッケージのデザインもゼミ生が考えました。撮影や照明、衣装まで全部。

学生：モデルもゼミ生なんです。キャッチコピーは分かりやすくインパクトがあるよう、意見を出し合って決めました。



穂原:ただ、いくらデータの裏付けがあっても、薬事法で「細くなる」という表現は使えないんです。マイナス5cm!としたいけれど、企業から「!？」にしてください、と注文が来る。そういうやり取りを通じて、生きた学びができました。

学生:みんなで改善点を見つけて、わいわい意見を出し合いました。スポーツ女子の集まりなので、結束力がいいんです。体育会系っていいな、とあらためて思いました。短大の限られた期間で、こんなに本格的なゼミ活動に携われ、商品化もできて、すごく充実した2年間でした。いつも消費者側だったのが、生産者の苦労が分かり、違う視点で物事を考えられるようになりました。

穂原:タイツの次はスポーツコスメの商品化に取り組んでいます。スポーツするとき、日本人は素顔が多いけれど、外国人選手は気合の入ったメイクをしています。そこで、ストレスにならず、きれいに見せるメイクができる透明スポーツファンデーションを提案しています。期待してください。

ラジオ出演を終えて

穂原寿識先生

1 出演した感想

ゼミ生もとても喜んでいました。私も楽しかったです。またぜひ、ほしいなあ、と思いました。

2 周りの反響

学部長、学科長、スポーツセンター長も聞いてくださり、学生のしっかりした口調や発言に驚いていました。

3 2で印象的な言葉、リアクション

ゼミ生は商品開発にかける思いを語ってくれたのですが、ゼミ生のマーケティングに関する知識が深まっているのが伝わってきました。

4 出演の前後で

気持ちや暮らしに変化は

研究をメディアに取りあげていただけるのはモチベーションの向上につながります。

5 武庫女とMUKOJOラジオに期待すること

武庫女にはいつまでも女子大のTOPを走り続けてほしい。MUKOJOラジオが、みんなに愛され、ずっと続く番組になればいいと思います。





フィリピンで学校に行けない子どもたちを支援



「子どもたちの笑顔がうれしい」と中野さん(左)



中野 陽子さん

文学部英語文化学科2001年卒

特定非営利活動法人「NEKKO」のスタッフ。
フィリピン・スービックで学校に行けない子ども
たちを支援するWISH HOUSE「希望に満ちる家」
の責任者

WISH HOUSEは、貧困ゆえに学校に行けない子どもたちを集めて、学習の機会を与え、修学できるよう支援する施設です。栄養失調の子には食事を与え、親が医療費を払えず、治療が受けられない病気の子は、同じ「NEKKO」の医療支援のセクションと連携してサポートします。

大学卒業後、母校の附属中高一で事務をしていたころ、長期休暇を利用して、よく海外旅行をしていました。あるとき、友人が青年海外協力隊に参加したり、途上国でボランティアをしたりする話を聞いて興味を持ち、軽い気持ちで「NEKKO」に連絡を取ったんです。すると「フィリピンまで話を聞きに来て」と言われて。現地で、貧困にあえぐ人々の暮らしを目の当たりにして、衝撃を受けました。子どもたちと遊ぶボランティアをしても、「お前に何がわかるんだ」という目で、にらみつけてくる子がいて、またショックを受けて。その後も何度か現地を訪れ、「私に何ができるか分からないけれど、一度きりの人生だから踏み込んでみよう」と決意す



るまで、2年かかりました。

まず、学校に通える下地作りのために、子どもたちが集える施設を作りました。私はそこで、家族のような、お姉ちゃんのような関わりをしています。当初は鉛筆と紙を渡しても、使い方が分からず、戸惑う子どもたちが多かったのです。まずは義務教育レベルの学力をつけさせる。小さいころから愛情を受けていない子には、愛情をかけてあげる。家で労働力として扱われ、笑顔がなかなか出なかった子は、2年半ほど関わって初めて、笑ってくれました。自分が何かしたことに對し、子どもが笑顔でこたえてくれたり、成長が見られたりすると、やっけてよかったと思います。

国際協力というのは、専門家の仕事と思われがちですが、実際に現地に行くと、専門家では手が届かないような社会の隙間に、支援が必要な状況がたくさん、あります。彼らと家族のように関わることは、子どもから年輩の方まで、誰でもできる国際協力です。何かしたい、と思ったら、まず、行動してください。

ラジオ出演を終えて

1 周りの反響

良くまとまっていたと好評でした。普段の広報活動なら、事業内容をもっと盛り込むのですが、今回は母校の依頼だったので、リラックスして自分の話をたくさんしたので、逆に等身大の私の姿を感じていただけののかな、と思いました。

2 出演の前後で

気持ちや暮らしに変化は

思ったよりうまく話せなかったのも、もっと場数を踏んで、上手に表現できるようになりたいと思いました。人前で話すと、後からあれこれ反省するのです。もっと努力が必要、といつも以上に感じました。目の前で人々の反応が分からない上に、不特定多数の方に知っていただく機会であるメディアだったことが大きいです。

3 武庫女とMUKOJOラジオに

期待すること

活躍する卒業生の紹介は、在校生や同じ卒業生の励みになるでしょう。より多くの方を発掘して、ご紹介いただけると幸いです。





ラジコ

radiko.jp

を使えば、



スマホ



パソコン

で

武庫川女子大学ラジオ

いつでも
どこでも

MUKOJO ラジコ が聴けます!

ラジコとは?

あなたが今いるエリアで放送しているラジオ局をスマートフォンやパソコンで聴くことができるアプリです。
また、タイムフリー機能で聴き逃した番組※を後で聴くことができます。
※過去1週間以内に放送された番組のみ。聴取可能時間(3時間)があります。



スマートフォンの場合

お使いのスマートフォン(iPhone / Android)に対応したアプリを取得してください。

iPhoneの場合

1 「App Store」をタップ

2 「検索」をタップ

3 「ラジコ」と入力

4 「入手」をタップし取得

Androidの場合

1 「Playストア」をタップ

2 「ラジコ」と入力

3 「インストール」をタップし取得



パソコンの場合

1 <http://radiko.jp>を開く

2 「MUKOJO」と入力

ポッドキャストでも聴けます!

「FM OH!」のホームページで、過去に放送した番組のポッドキャストを配信中。

発行 / 2018年4月1日

企画・制作・編集 / 武庫川女子大学 広報室

発行 所 / 武庫川女子大学 出版部

〒663-8558 兵庫県西宮市池開町6-46

TEL.0798-47-1212(代表)

デザイン・印刷 / 大和出版印刷株式会社

〒658-0031 兵庫県神戸市東灘区向洋町東2-7-2

ISBN 978-4-907594-07-7

定価 本体¥463+税

ISBN978-4-907594-07-7

C0400 ¥463E



9784907594077

定価（本体463円+税）



1920400004639

武庫川女子大学ラジオ-MUKOJOラジオ-



毎週水曜 20:00~20:30

DJ: 塩田えみ

http://www.fmosaka.net/_sites/16783117

「武庫川女子大学ラジオ-MUKOJOラジオ-」は、輝く女性を応援する30分プログラムです。